

# 地方史情報 162

2023年7月

## 地方史研究雑誌目次速報 飯澤文夫 編

\*本誌に掲載した雑誌に関するお問い合わせは、発行元に直接お願いします。

北海道	1	新潟県	37	島根県	57
青森県	4	富山県	40	岡山県	58
宮城県	5	石川県	41	広島県	59
秋田県	5	山梨県	43	徳島県	61
福島県	6	長野県	43	愛媛県	62
茨城県	7	静岡県	45	福岡県	62
栃木県	8	愛知県	47	長崎県	63
群馬県	8	滋賀県	47	宮崎県	63
埼玉県	10	京都府	48	沖縄県	64
千葉県	12	大阪府	48	寄贈図書	65
東京都	20	兵庫県	53		
神奈川県	33	和歌山県	56		

### 北海道

#### ◆浦幌町立博物館紀要

〒089-5614十勝郡浦幌町桜町16-1 TEL015-576-2009 2001年創刊

<https://museum-urahoro.jp>

◇23 2023.3 A4 73p

浦幌町立博物館所蔵の2022年度採集の蝶標本

荒川 和子

帯広空港敷地内の十勝坊主(アースハンモック)のトビムシ類

須摩 靖彦

調査記録 座談会記録「お正月の文化」

2022年1月13日「お正月の文化を語ろう」参加者：山本ひとみ・飯

井紹一・大本眞里子・久我ヒサエ・円子紳一・関谷晃

持田誠／古賀詠風

資料紹介 大正十五年・昭和元年 教育雑件 浦幌村役場(7)

三浦直春・大和田努 解説

年報 2021(令和3)年度事業報告(2021.4.1～2022.3.31)

◆浦幌町立博物館だより

〒089-5614十勝郡浦幌町桜町16-1 TEL015-576-2009 2000年創刊

<https://museum-urahoro.jp>

◇2023-3・4 2023.4 A4 2p

豊北海岸がモニタリングサイトに「モニ1000」が始まる 持田 誠  
博物館の収蔵資料から こんな資料を集めています！

ハクガンの剝製 持田 誠

Pick up Book〔注目の本〕 図書館から

『ハルルさんのひでんカレー』 すずきもも作・佐々木十美協力 部田麻紗子

◆標茶町博物館紀要

〒088-2261川上郡標茶町字塘路原野北8線58-9 TEL015-487-2332 2020年創刊

◇4(通33) 2023.3 A4 71p

表紙 虹別大滝と清流西別嘉保支流(令和4年8月) 標茶町博物館所蔵

標茶町二ツ山の昆虫相への森林管理変遷の影響(1)

一蜻蛉目・鱗翅目(チョウ類) 土屋慶丞/生方秀己/高橋優花

アイヌ文化に関わる学習支援事業 アイヌ文化講演会

チャシ・擦文の時代と虹別一内陸交通路としての追分都会 西 幸隆

考古学から見たチャシ跡 西 幸隆

北海道東部 根釧原野における森林と温暖化 小荷田行男

標茶町博物館 令和3年度年報

◆屯田 北海道屯田倶楽部

〒063-0037札幌市西区西野七条9-7-5 TEL011-676-6145

年3000円 1985年創刊 <https://tonden.org/>

◇73 2023.5 B5 80p 1000円

表紙絵図 根室牧場処分済の義上申(明治20年4月19日、国立国会図  
書館所蔵)

巻頭言 北海道開拓精神の源流 梶田 博昭

子思孫尊 軍人手帳に滲む苦難の足跡 江部乙屯田兵・寺本末吉さん  
編集室

翻刻版「三澤日記6分冊」(1) 有珠開拓の状況を克明に記録

三澤毅著 有珠郡開拓殖民の顛末/永年社社則

巨理伊達家の北海道開拓と屯田兵

- 三澤日記「有珠郡出張視察記録」から 江口 憲人  
 P R 北海道屯田倶楽部の本  
 屯田兵条例の制定と改廃 有馬 尚経  
 古地図の散歩道 「根室屯田兵共有牧場本場付近畑地」(早稲田大学図  
 書館所蔵)、「根室屯田兵共有牧場古丹消畑地」(早稲田大学図書館  
 所蔵)  
 根室屯田兵共有牧場畑地図 牧畜にかけた兵どもが夢の跡 宮内 隆一  
 屯田兵のデザイン考 屯田騎兵の扇子(美唄市郷土資料館展示)  
 扇面に滲む騎兵同志の友誼  
 北海道における神道・神社の歴史と開拓(下) 北国 諒星  
 一節抜粋 佐藤公聴著『あな、たのし』 士別開拓の秘話ににじむ郷  
 土愛(K)、平工剛郎著『近世北海道山林史』 山林の歴史から見た  
 北海道の近世(O)  
 屯田兵ルーツ情報 会津人・柴五郎の信書／消息情報  
 屯田兵犯科帳 (K)

◆文化情報 北海道文化財保護協会

〒060-0002札幌市中央区北二条西7丁目 かでる2・7ビル9階  
 TEL011-271-4220 <http://hokkaido-bunkazai.jp>

◇393 2023.4 A4 8p

- 原始林を伝う鈴の音 江別市野幌太々神楽 直井 孝一  
 令和5年度協会活動 多彩に文化財 保護・発信  
 登録有形文化財(建造物) レースホース牧場本厩舎(新ひだか町)  
 令和4年度文化財講座 札幌の秘密とバックヤードにあり／令和4年  
 度子ども文化財愛護活動推進事業 出前授業 プリカカイギユウ  
 とは、体験学習 しめ飾りと凧づくり体験  
 「関連遺跡群」の提唱 竹田 輝雄  
 第57回全道高等学校郷土研究発表大会 3年ぶりの観客に笑顔で開催  
 本間 愛之  
 まちのイチオシ 国宝指定へ 道内2例目 北海道白滝遺跡群出土品  
 松村 愉文  
 第3回文化財講演会「ニセコ鉄道遺産群と北海道の近代」 伊藤 大介  
 MUSEUM ひろば 「絵の町・岩内」発信の拠点へ  
 木田金次郎美術館 岡部 卓  
 観る・学ぶ! 道内博物館・美術館・文学館の催事情報  
 有島農場解放100年記念事業「有島武郎と北海道 ニセコ開拓の歩み

と鉄道遺産」

◆北海道の文化 北海道文化財保護協会

〒060-0002札幌市中央区北二条西7丁目 かでの2・7ビル9階 TEL011-271-4220

1961年創刊 <http://hokkaido-bunkazai.jp>

◇95 2023.3 A5 102p

表紙写真解説 札幌会津学寮について	鈴木 仁
巻頭言 北海道の脊椎動物化石発見と研究史	木村 方一
日本と米国の「友好の証」日本最古の時計塔	遠藤紘之助
札幌における旧会津藩団体の形成	鈴木 仁
侯爵菊亭脩季の開拓と菊亭侯碑	橋本とおる
蠣崎正広謀叛に関する一考察	新藤 透
アブタ道を歩いた人々—近世から近代にかけて	中野 克良
松浦武四郎「三航蝦夷日誌」の謎と偽書	吉原 裕
北海道天売島における自然環境・文化財保護運動	
—昭和23(1948)年の鳥糞土採掘反対運動	関 秀志
北海道遺産運動20年の歩みと今後の課題	山田 大隆
松浦武四郎に見つけた北海道の遺跡(19世紀の遺跡分布図) 後編	富永 勝也
令和4年度(一財)北海道文化財保護協会事業報告	

青 森 県

◆弘前大学国史研究 弘前大学国史研究会

〒036-8560弘前市文京町1 弘前大学教育学部日本史研究室内 1956年創刊

◇154 2023.5 B5 79p

大名が一番大事にした文書

—盛岡南部家宛徳川將軍家領知宛行状考(下)	千葉 一大
弘前藩江戸藩邸の太鼓と藩主の火消役・門番役について	篠村 正雄
危機への対応手段としての「アラキ」	
—北東北各地における第二次世界大戦前後の事例から	辻本 侑生
書 評	
長谷川成一著『〈郷土歴史シリーズ vol.6〉津軽為信—戦国を駆け	
抜ける鬚殿と呼ばれた初代藩主』	小田桐睦弥
福井敏隆著『弘前藩弓術師範 中畑家の歴史』	宮脇 啓
菊池勇夫著『戊辰戦争と東北・道南—地方・民衆の視座から—』	古川 祐貴
関根達人・菊池勇夫・手塚薫・北原モコットウナシ編『アイヌ文化	

史辞典』 今石みぎわ  
 例会実施記録  
 一〇〇回を迎えた例会—第五一回から第一〇〇回までの軌跡 例会事務局

## 宮 城 県

### ◆東北文化研究室紀要

〒980-0862仙台市青葉区川内27-1 東北大学大学院文学研究科 1959年創刊

◇64 2023.3 B5 60p

七ヶ浜・湊浜薬師堂および岩切・東光寺の石窟仏について—冠川(七  
 北田川)旧川筋沿いの石窟の造像と近世における石窟仏の認識

大沼陽太郎／付恩浩

「受け止め表明」における言語行動の志向とその地域差

—話者の言語感覚による東西の比較

加順 咲帆

地方周辺地域における LGBTQ と非当事者との「二重の不可視化」を

解く—宮城県北部の活動団体 Color Calibration を事例として

大森駿之介

東北文化研究室例会の報告

杉本 欣久

## 秋 田 県

### ◆菅江真澄研究 菅江真澄研究会

〒011-0909秋田市寺内見桜1-5-55 古四王神社社務所内 TEL018-845-0333

1981年創刊 <http://www.masumiken.com>

◇100 2023.5 B5 57p

《第100号記念特集号》

ご挨拶

小笹 鉄文

特集 菅江真澄が会った人々

久保田の俳人 吉川五明

石田 冲秋

小西久兵衛 (『雪の出羽路平鹿郡二』)

金児 絃征

東湖八坂神社神主・鎌田筑前 (『男鹿の秋風』)

菊地 利雄

いときよらなる女 (『小野のふるさと』)

小松 雅

山の長・近右衛門 (『おらがの滝』)

佐藤晃之輔

下国季豊 (『えみしのさえき・千島の磯・えぞのてぶり・牧の冬枯』)

清水川 修

学びの友 洞月上人・熊谷直堅・可見永通 (『伊那の中路』)

白坂 信夫

宝飯郡牛窪村の喜八と真澄と在所 (『えみしのさえき』)

杉浦 直二

- 菅江真澄と父母の面影（『伊那の中路』『秋田のかりね』『けふのせば  
布』『おぶちの牧』） 田口 久義  
長万部での青山芝備（『えぞのてぶり』） 田中 宣一  
シャバポロとコウシ（『えぞのてぶり』） 藤條真知子  
道案内の童（『かすむ駒形』） 永井登志樹  
千葉家の人々（『雪の出羽路平鹿郡二』） 藤原 宏
- 菅江真澄研究会学習会企画 「真澄が出会った人々」について  
菅江真澄研究会学習会配布資料より 信濃の日記に記された人名録  
／菅江真澄研究会学習会配布資料より 菅江真澄の国学関連人名録  
金児 絃征
- 菅江真澄の日記に記された人名一覧表  
シュロソウ(エゾユリ、エジョロ、ヌベ)の本草学 姉帯 正樹  
『秋田叢書』の「観音寺由来」の記述について 赤川與之助  
菅江真澄の時代の薬草事情 佐藤 晋一  
令和五年菅江真澄新春講演会  
「真澄の暮らした秋田市」の報告（講師：角崎大氏） 小笹 鉄文  
連載 真澄の一枚(第32回) 陸奥仙台の金玉伝説  
『粉本稿』より（大館市立栗盛記念図書館提供） 菊地 利雄  
真澄短信 「道の駅」から菅江真澄と旅するスタンプラリー開催／鳥  
海山鉾立ビジターセンターで菅江真澄が描いた鳥海山を展示  
図書紹介 菅江真澄 編・解説 石井正己『菅江真澄 函絵の旅』 （小笹）  
刊行物紹介 『もっと知りたい金足の風景』秋田市金足地区振興会（永  
井）、『真澄研究』二十七号 秋田県立博物館菅江真澄資料センター

## 福 島 県

- ◆フークトープ通信 フークトープ通信社  
〒960-8021福島市霞町9-38 シュタースティエ102室 山田英明方  
2015年創刊
- ◇55 2023.6 A4 2p  
国書刊行会と佐藤今朝夫 菅野 俊之  
フークトープ紀行(55) 森山古墳群（国見町） 及川 友江
- ◆文字摺通信 ふくしまの歴史と文化財  
〒960-8204福島市岡部字東町35-6 守谷早苗
- ◇39 2023.5 A4 4p

延享3年(1746)信夫郡荒井村絵図に見る屋敷林(いぐね)

昭和31年、ベニマルが福島に進出しました。

その時、福島の商店街の対応は

◇40 2023.5 A4 4p

昭和12年12月、荒井村役場資料に見る求人

女子は製糸・紡績業、男子は鉱山関係労働

山口厚氏撮影第一小学校コレクションより アダブラ・カダブラ～

はんこの話(3) ぎよめいぎよじ

◇41 2023.6 A4 4p

二ツ小屋隧道保存会「中野新道～散策と学びの3Days～第1日：大

滝宿 学びと散策」大滝会の皆さんを囲んで

まだまだ続きます。阿保原地蔵の追究

伊達市保原町上保原大柳竹柄に行って来ました

◇42 2023.6 A4 4p

小学校6年生が社会科で習う歴史上の人物は？

えっ！この人が？、あれっ！あの人は？

万世大路工事費信夫郡有志寄附金「奇特感謝状」

## 茨城県

◆常総中世史研究 茨城大学中世史研究会

〒310-8512水戸市文京2-1-1 茨城大学人文学部 高橋修研究室

TEL029-228-8120 2013年創刊

◇11 2023.3 A5 113p

講演録 八田知家と阿野全成事件

令和四年度第一回益子町歴史講座

高橋 修

中世浄土教における了誉聖罔の教義統一と鎮西義白旗派の展開

齋藤 夏希

発掘された行方郡南部の城館と嶋崎氏

間宮 正光

ふみの森もてぎ監修・高橋修編『戦う茂木一族』の成果と課題

清水亮／田中大喜／菱沼一憲／山縣創明／須貝慎吾

書評 地方史研究協議会編『海洋・内海・河川の地域史—茨城の史的

空間』

岡野 翔大

新刊紹介

水戸市立博物館編『那珂川ヒストリー—水と共に生きた人々』

藤井 達也

2022年度提出修士論文

北条時頼政権について—鎌倉幕府政治の転換点

菊池 晶

栃 木 県

◆歴史だより 栃木県歴史文化研究会会報

〒320-0865宇都宮市睦町2-2 栃木県立博物館内 TEL028-634-1313  
年4000円 1991年創刊

◇127 2023.4 A4 4p

《特集 栃木の廃線・未成線》

栃木の廃線—東野鉄道について

重藤 智彬

足尾銅山馬車鉄道の敷設とその遺産

青木 達也

栃木の未成線—国鉄・長倉線について

大山恒／小森紀男

新刊紹介

中野英男著『「渡辺清絵日記」の世界』

石川 雄也

松本一夫著『鎌倉時代の合戦システム 軍勢催促・戦闘作法・情報

伝達・軍功認定』

木村真理子

群 馬 県

◆ぐんま地域文化 群馬地域文化振興会

〒371-0801前橋市文京町3-27-26 群馬県立文書館内 TEL027-226-6246  
1993年創刊 <https://www.gunma-chiikibunka.jp>

◇60 2023.4 AB 36p 300円

《箕輪城と長野氏 特集》

歴史を掘る 山口薫が描いた「箕輪城跡」

山口 巖

重要文化財「臨江閣」への思い

清水 和夫

第30回 石川薫記念地域文化賞 研究賞 田中修・磯部淳一・関俊明

／受賞者のプロフィール

事 務 局

石川薫記念地域文化賞受賞者特別講座⑦要旨

『神道集』と「上州の神々り物語」

大島由紀夫

発掘情報

御富士山古墳とその時代—“毛野国”成立のあとさき

梅澤 重昭

古代の竈とはどのような施設であったのか

—近年の調査から見てきた竈の構造と構築方法

外山 政子

ぐんまの歴史入門講座

第237講 原始・古代 箕輪城内及びその周辺古墳

三浦茂三郎



第238講 中世 箕輪長野氏の箕輪領支配	久保田順一
第239講 近世 近世の箕輪長野氏遺臣について	関口 荘右
第240講 近現代	
箕輪城跡の縄張り研究を振り返る—山崎一氏の研究について	秋本 太郎
第241講 長野氏関係の石造文化財 石造文化財の見方(49)	秋池 武
古文書解読入門講座(47)—古文書から歴史を読む 覚書の世界	
—「長年寺住持受連覚書」を手掛かりに	近藤 聖弥
史跡をめぐる 箕輪城跡の調査と整備	秋本 太郎
史料紹介 「関東幕注文」の箕輪衆	久保田順一
ぐんまの地名 長野氏の出自と関連地名	関口 功一
地域づくりと文化遺産 箕輪城まつり	松本淳二／福島辰郎／宮川泰一
みのわの里のきつね嫁入り	岡本 優子
地域文化Q & A 箕輪城のお稲荷様はなぜ祀られたのですか？	山口 堅二
群馬県文化事業振興会出版案内	
上州の関所と番所(5) 碓氷関所の遠見番所と要害取り締まり	岡田 昭二
礫石経の世界(5) 「原町経塚」のこと—経塚納経供養の継承を考える	
	唐澤 至朗
ぐんまの自然と風土 旧下田邸書院及び庭園	村田 敬一

◆群馬文化 群馬県地域文化研究協議会

〒372-0831伊勢崎市山王町38-38 前澤和之方 年4000円 1957年創刊

<https://gunmabunka.org/wp/>

◇348 2023.4 A5 78p

近世上州の灌漑用水開発とその背景—高崎藩古領を事例として	和田 健一
長尾顕長の書き替えられていた感状と最晩年考	
—越前府中赤見家文書の紹介と検討	赤見 初夫
雑誌『蚕糸公論』の基礎的研究	東谷 篤
中世城館の記憶と認識—吾妻郡の山城を中心に	吉田 智哉
新刊紹介 関口覺著『養蚕改革・高山社の全貌』	宮崎 俊弥
口絵 綿貫観音山古墳出土の人物埴輪	
—群馬県立歴史博物館蔵品資料(149)	深澤 敦仁

◆武尊通信 群馬歴史民俗研究会

〒372-0033伊勢崎市本町5226-12 永島政彦方 TEL0270-32-9070 1979年創刊

◇174 2023.6 B5 4p

上野国の浄土伽藍	飯塚 聡
----------	------

近現代資料調査と行政文書の扱いについて 井坂 優斗  
第123回例会記事 秋山寛行氏「近世後期高崎藩の宿場支配」(秋山)、  
大塚恒平氏「歴史民俗研究と GIS の活用—地図ツールの紹介を中心—to」(大塚)

## 埼玉県

### ◆久喜古文書研究会紀要

〒346-0016久喜市久喜東1-15-24 館山誠方 2021年創刊

#### ◇1 2021.3 A4 136p

創刊号 挨拶

島田 昌弘

実在の力

館山 誠

房川渡中田関所番士の「御用留書」を読む

—北関東不穏のなかの関所通行査検

久喜古文書研究会

「文久二年伊勢参宮其外道中記」

梅田博／館山誠／渡辺章

弘前藩仕置集—元禄七年前半編

弘前藩仕置集を作る会

琴寄村打ちこわし

有馬洋太郎

「おたらべこたん」についての一考察

松本 圭司

近世津軽領の土地移動(上)—津軽領西浜・新田地帯の地方証文を読む

館山 誠

#### ◇2 2022.3 A4 130p

房川渡中田関所番士の「御用留書」を読む(2)

～北関東不穏のなかの関所通行査検

久喜古文書研究会

弘前藩仕置集(2)—元禄七年後半編

弘前藩仕置集を作る会

弘前藩『格帳』(文政十二年)

館山誠／松本圭司

近世津軽領の土地移動(中)—津軽領の地方証文を読む

館山 誠

琴寄村打ちこわし(2)—打ちこわしの参画者・参加者・野次馬

有馬洋太郎

#### ◇3 2023.3 A4 130p

房川渡中田関所番士の「御用留書」を読む(3)

—北関東不穏のなかの関所通行査検

久喜古文書研究会

難航する悪水排出路の「模様替」—天保四年から天保七年の島中川辺

領・向川辺領

有馬洋太郎／久喜古文書研究会

弘前藩仕置集(3)—元禄八年前半編

館山誠／松本圭司／渡辺章

近世津軽領の土地移動(下)—津軽領の地方証文を読む

館山 誠

◆さいたま市アーカイブズセンター紀要

さいたま市総務局総務部アーカイブズセンター

〒331-0823さいたま市北区日進町2-1864-10 J S 日進 3階 TEL048-871-5821

◇7 2023.3 A4 116p

武蔵国一宮神主日記に記録された疫病

一在村医小室元長の日記と合せ読む

石岡 康子

近世の医師・儒学者人見氏一族の墓域と在地(下大久保村)支配の一側

面

野尻 靖

1947年埼玉県議会議員選挙の一断面

一浦和市選挙区における白戸としえを中心に

松岡 信之

弥生時代の遺跡出土の磨石と石皿一さいたま市内の資料を中心に

杉山 浩平

◆武蔵野 武蔵野文化協会

〒362-0011上尾市平塚976-5 加藤方 武蔵野頒布会 TEL048-775-6918

年4000円 1918年創刊 <https://musashinobunka.jp>

◇363 (97-1) 2023.3 A5 86p

《特集 「武蔵野」の過去と現状、そして未来へ》

「考古学の特集」にあたり

高麗 正

I 礎から新たな視点へ

鼎談「武蔵野」の考古学～昔と今、そして未来

高麗正／島田正人／松原典明／坂詰秀一

吉田格先生と武蔵野の考古学

今村 啓爾

再録 吉田格先生の縄文文化研究

今村 啓爾

考古学者 甲野勇 博物館をつくる

中根 聖可

II 新たな展開

西東京市下野谷遺跡におけるICTの活用

亀田 直美

考古学におけるICT活用と「武蔵野」

安田 幸世

『新府中市史』における多重光源陰影段彩図の活用

英 太郎

III 近年の動向

近世大名庭園の保存・活用

樋渡 達也

芝丸山第8号墳出土人物埴輪の再発見とその後

一東京都指定史跡芝丸山古墳維持管理・活用計画の策定について

平田 健

武蔵野の戦争遺跡を伝える

松原 典明

特別展「埼玉考古五〇選」の開催について

堀口 智彦

高輪築堤跡の史跡指定

武蔵野文化協会

千葉県

◆我孫子市史研究センター会報

〒270-1152我孫子市寿1-3-12 荒井方 TEL04-7182-2838

<http://abikosisiken.main.jp>

◇251 (通558) 2023.4 A4 18p

「我孫子市史を読む会」4月活動報告

エピローグ「みんなで語ろう下総の近世」 萩原 正美

井上家文書研究会 4月の活動報告 No.1152 寛延4年7月相嶋新田

堤根腹屋敷地御案内帳、No.1369 寛延4年3月下総国印旛・相馬郡

手賀沼附三拾九ヶ村組合川除御普請出来形帳 岡本 和男

歴史部会 3月・古代史研究Gの4月の活動報告

歴史部会 我孫子の“ざわつく”5・6・7世紀

古代史研究G 我孫子の5・6・7世紀も興味深(オモシロ)い 中嶋 正義

古文書火曜部会 3月度活動報告 享保の渡来象関連資料 21～26頁

新名 克子

火曜部会 布施村の資料を読む前に

金成 典知

古文書解読日曜部会 4月の活動報告

「牛久騒動女化日記 全」(故高島眞一氏所蔵文書) 59～66頁

白神 正光

我孫子の寺社を訪ねる(50) 布佐地区(6) 勝蔵院

山本 包介

◇252 (通559) 2023.5 A4 10p

歴史探訪部会 5月の活動報告 柏市大井・箕輪地区を訪ねる

長谷川秀也

5月例会「柏市大井・箕輪地区を訪ねる」に参加して

芦崎 敬己

古文書火曜部会 4月度活動報告 享保の渡来象関連資料 27～32頁

永長 治夫

古文書解読日曜部会 5月の活動報告

「牛久騒動女化日記 全」(故高島眞一氏所蔵文書) 66～70頁

田中 康弘

古代史研究グループ 5月の活動報告

「伝承の中のあびこー5世紀の時代ー」

池田 隆信

「我孫子市史を読む会」5月度活動報告

『我孫子市史近世編』ダイジェスト版 第1章～第3章(p1～p15) 萩原 正美

歴史部会 4月の活動報告 我孫子宿「追分道標」の語るもの

関口 一郎

井上家文書研究会 5月の活動報告 No.906 寛政4子年8月「当子年

反高見取場御検見御案内帳(相嶋新田、三河屋新田)」、No.2005 寛政4子年9月「村差出明細帳」相嶋新田、No.2000 寛政5丑年5月「村差出明細帳」相嶋新田、No.2055 寛政5丑年正月 無題(金ヶ作役所よりの触れの写しと布佐村よりの廻状) 岡本 和男

◆佐倉の地名 佐倉地名研究会会報

〒285-0843佐倉市中志津6-21-13 田中征志方 TEL043-489-7439  
年2000円 2012年創刊

◇31 2023.4 A4 16p

佐倉縁の人物 特集 津田梅子の生涯	小川 眞資
落人村から	酒井 晴美
志津の地名について(20)	田中 征志
「間野台」地名の雑考	伊藤 清
志津地区の小字「木ノ宮大割」	平田恭一郎
「…めき」地名を探る	山部 紘

◆里見氏研究 里見氏研究会

〒299-2204南房総市平久里中599 川名芳一方 TEL0470-58-0781  
年2000円 2022年創刊

◇1 2022.3 A5 148p

創刊にあたって	滝川 恒昭
第一回記念報告 里見氏研究の現在と未来—学界の現状をふまえて	谷口 雄太
後北条氏家臣福室氏に関する一考察	
—特に相模三崎城・上総中尾城・武蔵金沢での動向に注目して	佐藤 博信
房総における天正の内乱と里見義頼の「外交」	
—その挙兵時期との関連性について	細田 大樹
里見氏香取侵攻の経路に関する一考察—交通史の観点から	遠山 成一
里見義弘の家督相続についての覚書	
—研究史の整理と課題の確認のために	滝川 恒昭
里見分限帳から蔵入村の分布を読み解く	岡田 晃司
近世安房における里見氏関連供養塔の紹介(1)	早川 正司
里見氏の古文書探訪 第1回 豊岡家文書(南房総市)	岡田 晃司
里見紀行(1) 鳥取県倉吉市・琴浦町	滝川 恒昭
研究会に参加して	島田 章
千葉氏と里見氏	外山 信司
小弓公方足利義明の孫娘嶋子姫の観音堂再訪	築瀬 裕一

例会記録・例会報告要旨 第1回 谷口雄太氏「里見氏研究の現在と未来」、滝川恒昭氏「伊能文書」所収板倉昌察書状写について」／第2回 山本昌幸氏「正木氏の香取郡侵攻とその影響」、滝川恒昭氏「里見氏と常陸国に関する覚書」／第3回 細田大樹氏「里見義頼の「外交」と天正の内乱」、高橋誠氏「史料紹介 新発見の里見義頼印判状」／第4回 松戸市立博物館実習室(細田大樹)／第5回 遠山成一氏「元亀年間における千葉氏と里見氏の抗争津再考」、滝川恒昭氏「第一次国府台合戦再考」／第6回 上総三船山古戦場・佐貫城跡(細田大樹)／第7回 岡田晃司氏「里見氏旧領における百姓系図作成過程の検討」／第8回 木更津市内古文書見学会(江澤一樹)／第9回 江澤一樹氏「里見氏国替考—慶長十九年の政治動向から」／第10回 濱名徳順氏「安房石堂寺多宝塔相輪銘と丸氏」／第11回 浜野本行寺文書・浜野城跡・生実城跡(細田大樹)／第12回 細田大樹氏「房総里見氏と越後上杉氏の関係について」

◇2 2023.3 A5 211p

総会記念講演 いわゆる第二次国府台合戦を再検討する	滝川 恒昭
『快元僧都記』天文六年末と七年の小弓公方関連記事の成立について	
一二つの軍記との比較検討から	築瀬 裕一
越相同盟交渉における房総里見氏—一通の上杉景虎書状から	細田 大樹
関東足利氏について—考察—越相同盟以後の足利義氏を中心に	安田 健人
後北条氏の家産管理に関する覚書—特に台所・台所奉行をめぐって	佐藤 博信
「里見上野入道宛道哲書状案」に関する一考察	
—小西原氏の動向をめぐって	遠山 成一
金沢文庫旧蔵本医薬書を伝えた安房上野氏について	岡田 晃司
近世安房における里見氏関連供養塔の紹介(2)	早川 正司
新発見の里見義頼印判状について	高橋 誠
里見氏の古文書探訪 第二回 竹内文平氏旧蔵里見義継黒印状(過所)	岡田 晃司
里見紀行(2) 東京都江戸川区	滝川 恒昭
千葉市立郷土博物館特別展見学記	岸野 達也
相模台を歩いて	山本 工
収蔵資料展「里見氏断絶とその後の安房の人々」	夢酔 藤山
勝浦市浜行の金剛寺に残る「里見龍神」	嶺島 英寿
君津と品川	鈴木三美子
新刊紹介 滝川恒昭『人物叢書 里見義堯』	吉田 勝弥
伯耆国倉吉調査・見学報告	江澤 一樹

例会記録・例会報告要旨 第13回 袖ヶ浦市椎津城跡(江澤一樹)／第14回 滝川恒昭氏「いわゆる第二次国府台合戦を再検討する」(江澤一樹)／第15回 館山市立博物館(江澤一樹)／第16回 滝川恒昭氏「房総里見氏研究の歩みと『人物叢書 里見義堯』の紹介」(江澤一樹)／第17回 千葉市立郷土博物館(江澤一樹)／第18回 外山信司氏「大蟲和尚が記した里見勢の香取侵攻一大崎(矢作)城を中心に」、遠山成一氏「里見上野入道宛哲書状に関する一考察—小西原氏の動向をめぐって」(江澤一樹)

ISSN 2436-9063	
里見氏研究	
創刊号	
創刊にあたって	滝川恒昭 1
第一回記念報告	房総地域の戦史と本巻・中巻の戦歴をふまえて
目次	目次編 3
目次	目次編 3
論文	
房総北原部戦況に関する一考察	高橋誠一 19
「戦に制勝、戦城、土曜守城」武蔵赤松での戦術に注目して	藤田大智 43
福屋における天正の乱と里見義綱の「体交」	藤田大智 43
「その中野原戦上の両遺跡について」	
研究ノート	
里見氏家系図の検討に関する一考察	高橋誠一 68
「室町の戦況から」	
里見義家の家系図について	藤田大智 88
「研究の進展と論議の場」	
里見氏家系図からみた里見氏の家系図	藤田大智 91
資料紹介	
里見氏に関する里見氏関係者の紹介(1)	早川正司 97
里見氏の古文書群	
第1回 里見氏文書(論議編)	岡田寛司 109
里見氏文書(論議編)	
その1 志保野合・早瀬野	滝川恒昭 113
研究報告	
研究会に参画して	高田 9 122
研究会を参画して	外山信司 126
研究会を参画して	藤田大智 129
例会記録・報告要旨	133
創刊号	2022年3月号
里見氏研究会	

\*里見氏研究会は2019年に、「房総里見氏とその活躍した房総戦国史を基軸としながら、その前提となる全国の里見氏の歴史も研究すること」(会則)を目的に創設された。

それ以来、毎年の総会、隔月の研究例会(研究発表、古文書・史跡見学会など)の活動をしてきた。創設翌年に発生した新型コロナウイルスにより、活動停滞を余儀なくされたが、それでも何とか乗り越えて活動を続けている。

本誌は、2021年の総会で、「会のさらなる発展を期すために、研究会としての組織の体裁を整えるとともに、会員相互の交流をはかり、なにより研究の推進と会活動の実績を具体的に世に問うため、研究機関誌(年刊)を刊行すること」を決し、「里見氏を通じてその時代を考えようとする人にとって学問成果を問う場となるとともに、里見氏のことを身近に感じ親しんでいただける冊子となり、研究や会活動がさらに進展すること」(滝川恒昭「創刊にあたって」)を願って創刊したものである。

満を持しての創刊であり、創刊号、第2号共、力のかもった論文、研究ノート、関係文書の紹介などが並び、関係地紀行や歴史随想もあって親しみやすさも感じられる。また、第1回からの報告者自身(合同調査の場合は担当者)による「例会報告要旨」が掲載され、活動の様子がよく理解できる。

谷口雄太氏の「里見氏研究の現在と未来—学界の現状をふまえて」は、これまでの研究史を整理し、今後の研究会活動の指針となるようまとめたものである。学界の動向は社会史・地域史から政治史・国家史に変化しているとし、過去の良質な社会史・地域史な方法論を継承しつつも、室町・鎌倉幕府論、戦国大名論、国衆論などとリンクすることの必要性、また、研究文献や情報量の爆発的な増加で追い切れぬ状況下であって、研究者・専門家同士の人のつながりが基本中の基本になると指摘する。その上で、里見氏研究会の誕生は、「場」と「人」の復活であり、会が今後の起爆剤になることを期待していると述べている。新たに研究を開始していくのにふさわしい論考であろう。

◆館山と文化財 館山市文化財保護協会

〒294-0014館山市山本2299 安田隆一方 TEL0470-22-2391

◇56 2023.3 B5 69p

発刊のことば

安田 隆一

やんごめくいくい—安房の迎え火・送り火

山村 恭子

館山湾のゴンドウ鯨漁

清水 信明

さまよう旗本・困惑する村方…慶応四年～明治元年

佐藤 惠重

館山神社所蔵「阿波屋弁財天像由緒書」

宮坂 新

山歩き、出会いと発見

青木 徳雄

押す「おっぺす」の語源について

児玉 憲男

寺社めぐり

袖ヶ浦周辺の文化財探訪—西上総の古仏拝観—に参加して

金久ひろみ

令和四年度協会記事

第二十回寺社めぐり 袖ヶ浦周辺の文化財探訪—西上総の古仏拝観

令和四年度文化財講演会

徳川家康の関東入国と房総—豊臣政権下の態様

柴 裕之

◆千葉県立中央博物館研究報告

〒260-0852千葉市中央区青葉町955-2 TEL043-265-3111 1989年創刊

www.chiba-muse.or.jp/NATURAL/

◇16-2 2023.3 A4 132p

屏風ヶ浦海食崖の景観と近年の地形変化—消波堤設置による侵食様式

の変化とその影響

吉村光敏／八木令子／小田島高之

下部白亜系銚子層群から産出したシロアリ類コプロライト

伊左治鎮司

京都・同志社の加藤延年氏の貝類コレクション

—その由来・保管の変遷・活用

黒住 耐二



マッコウクジラ <i>Physeter macrocephalus</i> 新生児の前肢骨格	宮川 尚子
千葉県茂原 八積湿原のコケ植物	川合正光／古木達郎
千葉県流山市のコケ植物	内海陽一／古木達郎
千葉県立中央博物館大多喜城分館が所蔵する古文書二点	渡辺善司／石井友菜

◆成田市史研究 成田市教育委員会

〒286-0017成田市赤坂1-1-3 成田市立図書館管理係市史編さん担当

TEL0476-27-2533 1972年創刊

◇47 2023.3 A4 94p

大慈恩寺木造千手観音坐像の願主斎藤三政と仏師運節	木村 修
成田市及びその周辺 of 古代仏教環境	高木 博彦
菊間藩出身の教師織田豊二とその顕彰碑	樋口 雄彦
史料にみる長沼事件後の長沼村—明治10年代を中心に 令和3年度市史講座「貝塚が語る成田の縄文」	矢嶋 毅之 講師・小川和博

成田市史研究余話5

成田ニュータウンの経塚—天・船11号経塚	高木 博彦
下総の湯浅氏について	木村 修
大須賀一族成毛氏と国分氏一里見勢の矢作城攻めに関して	外山 信司
麻賀多大明神神主が記録した野犬の被害	関 初弥
船形麻賀多神社の紀年碑	矢嶋 毅之
「青年学校日誌」と『町立成田高女日誌』の空襲に関する記載について	中村 政弘
成田は何都市？—成田市の都市機能	石毛 一郎
成田市史年表稿 2020(令和2)年	解説・中村政弘
成田市関係新聞記事目録 2020(令和2)年	
業務記録 2022(令和4)年1月～12月	

◆西上総文化会報

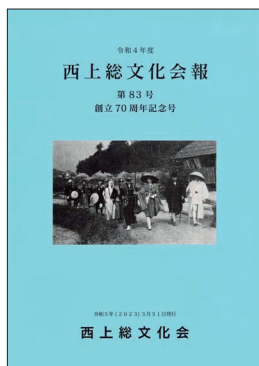
〒292-0802木更津市真舟4-3-8 川俣公男方 TEL0438-37-1877

◇83 2023.3 B5 134p

《創立70周年記念号》

巻頭言 会報第三号発刊にあたって	八田 英之
祝辞 西上総文化会創立七〇周年	廣部 昌弘
創立七〇周年	
西上総文化会のあゆみ	八田 英之
木更津市制施行八〇年—その背景・経緯と課題	栗原 克榮

郷土愛	鬼形むつ子
江戸末期、房総の漢詩世界 道化のような吟遊詩人たちの肖像	河野 良恒
飯野藩領近江伊香郷・丹波天田郡紀行	八田 英之
齋藤昌麿の遺歌集「昌麿家集」解説について(1)―「昌麿家集」とは、	
齋藤昌麿の和歌や長歌を友人が選歌・出版したもの	諏訪 貞夫
諸西藩の時事でたどる藩財政抄録	上 総 行
選擇寺境内散策と「こうもり安」の墓 芝居「与話情浮名横櫛」考	
	今葦倍みのり
袖ヶ浦市長浦、海辺のクルマエビ獲り 主に一九六六年までのこと	麦野ゆたか
「きさらづ未来会議」について想うこと	加藤 隆
無住寺の鎌足桜	上杉 章子
書評 藤平俊雄著『西上総の石碑を廻る 君津・富津編』	八田 英之
移動研修レポート	
箱根石仏群など歴史散歩(第680回例会) 移動研修Ⅰ	佐伯文紀子
長野県方面を訪ねる(第682回例会) 移動研修Ⅱ	藤平 俊雄
研究発表	
真里谷武田氏について 研究発表Ⅰ(第681回例会)	稲葉 昭智
伊能忠敬の房総測量―西上総を中心に 研究発表Ⅱ(第685回例会)	
	實形 裕介
例会・理事会・報告	
理事会報告	八田 英之
第679回例会 西上総文化会定期総会と懇談昼食会	
第680回例会 移動研修Ⅰ 箱根方面	
第681回例会 研究発表Ⅰ 真里谷武田氏について	
第682回例会 移動研修Ⅱ 長野県方面	



第683回例会 文化展 第744回西上総文化展(創立70周年記念展)

第684回例会 理事会と新年の会

第685回例会 研究発表Ⅱ 伊能忠敬の房総測量

第686回例会 移動研修Ⅲ 木更津・君津・富津方面

歴史ミニ情報 劉雨田と大賀ハス／富津市の大字「小久保」の発音

\*西上総文化会は、「郷土文化の淵源」をたずねる同好の士のあつまり」として、1952年に、「西上総郷土文化懇話会」の名称で発足した。西上総とは東京湾に面した房総半島の中頃、袖ヶ浦、木更津、君津、富津の一帯である。原動力となったのは、木更津第一高等学校教諭(のちに校長)の菱田忠義であった。

現会長八田英之氏の「西上総文化会のあゆみ」によれば、会が生まれた背景は、菅生遺跡(すごういせき、木更津市、古代水路を中心とした集落)と、金鈴塚古墳(きんれいづかこふん、木更津市、古墳時代後期)の発見と、戦後7年が経過し、世情が安定したことがあったという。

発足の頃の会員数は約60名で、2000年頃には100名を超えたが、現在はまた60名ほどになっている。この間、月1回の近隣歴史遺跡や社寺の見学会、会員持ち寄り資料の学習会、同じく仏像など美術品の鑑賞会、木更津市立図書館と共催の文化財展覧会、西上総文化展などを続けてきた。この活動の中で、木更津市東光院所蔵の「木造薬師如来立像」(峯の薬師像)を県指定文化財に認定させる業績も上げている。

『会報』は会員の消息・意見発表の場として1964年に創刊した月刊のガリ版刷りニュースに始まり、1969年からは年刊にし、見学会報告や論文、エッセイを掲載するようになった。

会員の高齢化もあって会運営も難しくなっているようであるが、今後の方向性として、「多くの方が郷土に親しみ、文化に触れるという開かれた取り組みとそれぞれに蓄積してきた郷土史の研究の発表、すでに行ったところでも新たな切り口で最新の到達点を学べるようなレベルの高い研修の二つの方向性を持った活動が必要なのではないか」と記している。さらに地道に継続されるよう期待したい。

#### ◆忘れぬかも 故里の歴史をさぐる 大網白里市郷土史研究会

〒299-3211大網白里市細草1411-9 古山豊方 TEL0475-77-4374 2000年創刊

◇12 2023.4 B5 82p

巻頭言 調べることの楽しさ『楽只堂年録』を探して 古山 豊

私の中の「忘れぬかも」—会誌十一号の座談会に寄せて 深田 義之

令和三年度総会記念講演 戦国の日蓮聖人坐像について 土屋 賢泰

令和四年度総会記念講演

早世の言論人・高山樗陰の『無絃琴』を読む	鶴澤 良臣
幕末の九十九里真忠組	出畑 正美
国立歴史民俗博物館誘致の顛末一佐倉城址復元か歴博誘致か	川合雄二郎
百年前の県内五〇町歩以上の大地主たち一山武・長生郡市を中心	古山 豊
今井美房とマッカーサー大使の手紙	田野 圭子
上代家系図について一墓石と曼荼羅から分かった事	八角 俊
全員座談会「昔の生活いろいろ」	足立純男／他
下ヶ榜示の昔噺	吉田 文也
東京裁判日本側弁護団長 鶴飼總明と郷土	小川 力也
自彊の一人一祖父・八角優	八角 俊
大網白里市郷土史研究会活動の足跡（平成三〇年度～令和四年度）	
五年間	事務局

## 東京都

### ◆板橋史談 板橋史談会

〒173-0015板橋区栄町24-12-203 井上富夫方 FAX03-3579-3178

1966年創刊 <https://sites.google.com/view/itabashishidankai/home>

◇316 2023.5 B5 55p

表紙写真解説 「縁切榎」と「むすびのけやき」（板橋区本町十八番／

板橋一丁目十五番）撮影日：2021年12月12日

写真と文・井上富夫

板橋区の文化財(1) 西台天祖神社所蔵絵馬・扁額

松崎 憲三

板橋区内の神社の石造物整備について

一四種類の石造物造立年代を中心に(3)

井上 富夫

城への誘い(7)

三原寿太郎

区政つれづれの記(12終) まとめ編(3)

第3章 人材育成(昭和後期～平成)

松浦 勉

板橋区文化財情報

文責・井上富夫

板橋区文化財瓦版 小石川善光寺の石塀が無くなっていた

井上 富夫

### ◆奥武蔵 奥武蔵研究会

〒175-0092板橋区赤塚7-18-7 <http://okumusasi.travel.coocan.jp>

◇451 2023.5 B5 20p

表紙 「竹寺参道にて」 画・三森かおる氏

わが奥武蔵・秩父にコロナ禍が残したもの

小泉 重光

写真で探る天覚山と両峯神社

町田 尚夫

浦山口の山々(1)	小泉 重光
山行報告	
加治丘陵で俳句山行	吉田美知子
第35回東吾野・地域を歩こう	成川 茂雄
ツツジ山	中塚智恵美
陣見山からあんずの里へ	高橋 澄夫
釜ノ沢五峰	小泉 重光
赤塚の二輪草と桜	岡野 守
蓑山	河野 尚久
天神山と天覚山をつないで	吉田美知子
4月集会山行「山ご飯」	大川 満代

#### ◆北区史を考える会会報

〒114-0023北区滝野川3-43-10-301 有馬純雄方 TEL03-3917-8115 1986年創刊

◇147 2023.5 B5 8p

第467回 月例研究会

北区に唯一残る都電荒川線 講師・山下ルミコ氏 報告・有馬純雄  
八十歳の東京お遍路歩き 藤巻 洋三

第468回 月例見学会 中世の「都市鎌倉をあるく」 報告・室岡裕之

第469回 月例研究会 なぜ私は今の所に住んでいるのか 報告・馬場永子

#### ◆儀礼文化ニュース 儀礼文化学会

〒160-0012新宿区南元町13-7 TEL03-3355-4188 <http://www.girei.jp>

◇230 2023.6 A4 8p

催事スケッチ 宮城県牡鹿郡女川町 おながわみなと祭り

大漁旗を翻して海を渡る獅子たち 写真と文・久保田裕道  
儀礼文化を語る

儀礼文化講座(令和4年度第9回) 道教

「道教におけるこころとかたち」 國學院大學教授 浅野春二

儀礼文化講座(令和5年度第1回) 仏教

「谷中天王寺の歴史と文化」 天王寺住職 末廣照純

レポート 儀礼文化セミナー(令和4年度第5回) 文楽

近松名作集「心中天網島」 坂爪紀弥江

福島県の三匹獅子舞 箱崎の獅子舞を訪ねて

愛宕神社の例大祭／村廻り 写真と文・丹治逸雄

ミュージアム探訪 池上本門寺 霊宝殿(東京・大田区) 特別展「本

門寺の狩野派」／ニュース 「折形」資料について  
儀礼文化アーカイブ 第九回地方大会 熊野路の文化と信仰を探る  
平成元年7月13～15日

◆史学研究集録 国學院大學大学院史学専攻大学院会

〒150-8440渋谷区東4-10-28 TEL03-5466-0142 1971年創刊

◇46 2022.3 A5 50p

地域の歴史を学ぶ意味 岩橋 清美  
板垣洋行問題に関する三井の関与 金 進基  
活動状況(2020年4月～2021年3月)

◇47 2023.3 A5 110p

巻頭言 中国地方史研究と方志 林 和生  
大蔵省主税局の人事と組織 篠原 大輝  
安島家文書所収「戸田蓬軒翁五十年祭」関係史料について 村上 瑞木  
唐 張九齡『曲江集』勅書内容総覧一卷十一(上) 『曲江集』勅書を読む会  
活動状況(2020年4月～2021年3月)

◆市史研究きよせ 清瀬市

〒204-8511清瀬市中里5-842 清瀬市企画部市史編さん室市史係

TEL042-497-1813 2016年創刊

◇8 2023.3 A5 79p

表紙 柿の下の田んぼ(昭和35年)  
『清瀬市史6 資料編 現代』刊行  
『清瀬市史 資料調査報告5 資料編近世補遺「御用留」』刊行  
清瀬の民俗調査を始めるにあたって 高久 舞  
史料紹介 芝山の御林と新田開発関連絵図 清水 正彦  
資料紹介 「海捷記念」の文字を描く変形皿について 東野 豊秋  
資料紹介 「清瀬市内板碑 岡田芳朗氏調査資料」について 考古部会  
下宿内山遺跡と周辺の中世瓦 深澤 靖幸

講演会報告「村絵図と古文書に見る江戸時代の清瀬」

講師：根岸茂夫氏(国學院大學名誉教授)

石碑・石仏探訪(6) 桜株の庚申塔 新座市あたご三丁目 執筆担当・齊藤隆雄  
専門部会の動き 考古部会／古代・中世部会／近世部会／近代部会／  
現代部会／民俗部会 部会長の横顔(高久舞)／結核療養部会 部会  
長の横顔(黒尾和久)

テーマ展示『結核療養と清瀬』報告 市史編さん室

◆品川歴史館紀要 品川区立品川歴史館

〒140-0014品川区大井6-11-1 TEL03-3777-4060 1986年創刊

◇37 2023.3 B5 97+11p

享保期における将軍徳川吉宗の品川鷹野御成と御殿山園地開放 富川 武史  
鉄道建設事業に見る高輪・芝・汐留地域 中元 幸二  
品川区立品川歴史館大規模改修に伴う収蔵資料移転報告 金子千秋・長谷川美穂  
品川用水の誕生と終焉—企画展「品川用水」とその調査の記録 鈴木三美子  
品川歴史館 令和3年度事業報告

◆石神井公園ふるさと文化館ニュース 練馬区立石神井公園ふるさと文化館

〒177-0041練馬区石神井町5-12-16 TEL03-3996-4060

<https://www.neribun.or.jp/furusato.html>

◇46 2023.3 A4 4p

企画展「産業で振り返る練馬の近代」

表紙：木びき鋸、茶摘み鉢、上州座繰器、かき桶、金づめ

企画展「産業で振り返る練馬の近代」／関連イベント

収蔵品 「道場寺旧蔵の石器と土器」からみる石神井 小宮佐知子  
コラム 石神井周辺における明治期の養蚕・製糸業、 小宮佐知子

◆自由民権 町田市立自由民権資料館紀要

〒195-0063町田市野津田町897 TEL042-734-4508 1987年創刊

◇36 2023.3 A5 106p

《特集 「色川民衆史」のなかの自由民権研究》

色川大吉の歴史叙述が問うたもの

—ふたつの「百年」を前に描き出された「近代」 石居 人也

色川大吉と「結社の思想」—可能性の歴史学 大月 英雄

色川大吉と困民党論争—民権百年期の色川民衆史と私 杉山 弘

書評 三村昌司『日本近代社会形成史—議場・政党・名望家』 塩原 佳典

新刊紹介

三木健編『民衆史の狼火を一追悼色川大吉』 伊藤 大輔

千葉茂『受容と信仰仙台藩士のハリストス正教と自由民権』 山下須美礼

熊谷市教育委員会社会教育課市史編さん室編『熊谷市史料集7

熊谷自由民権運動史料1 「七名社」の時代』 鈴木 義治

講演録 都市と地域から考える自由民権 福井 淳

民権ネットワーク

北海道  
山形県  
福島県  
茨城県  
埼玉県  
千葉県  
東京都  
多摩地区  
神奈川県  
新潟県  
愛知県  
大阪府  
高知県  
福岡県  
佐賀県  
旧幕臣  
田中正造  
文 学

國岡 健  
升川 繁敏  
渡辺 実  
飯塚 彬  
鈴木 義治  
矢嶋 毅之  
福井 淳  
松崎 稔  
野崎 昭雄  
河西 英通  
中元 崇智  
竹田 芳則  
濱田 実侑  
江島 香  
山下 春菜  
樋口 雄彦  
赤上 剛  
松原 真

自由民権運動関係文献情報(36)

◆西郊民俗 西郊民俗談話会

〒112-0005文京区水道2-3-15-403 小池淳一方 年2000円 1957年創刊  
<http://seikouminzoku.sakura.ne.jp>

◇263 2023.6 B5 23p

麦打ちの後処理または代替としての「麦おし」

一臼と杵で「おす」麦脱穀の最終段階  
岩船山の孫太郎天狗と孫太郎稲荷  
富山県魚津市古鹿熊におけるトリモチ猟

榎本 直樹  
林 京子  
森 俊

◆世間話研究 世間話研究会（発売：岩田書院）

〒150-8440渋谷区東4-10-28 國學院大學 若木タワー111 F 1116研究室  
飯倉義之方 1989年創刊 <https://sekenbanashi.wordpress.com>

◇29 2023.3 A5 86p 1000円

『学校の怪談』以前的事

—1980～90年代ホラー漫画雑誌の読者投稿に関する基礎調査  
近現代における丑の刻参り—藁人形と釘をめぐる

廣田 龍平  
鳴海あかり



「鮑騒動」はいかに語られているか

一九二〇年代三陸沿岸の漁民争議をめぐる語りと実践  
世間話研究会 例会記録

辻本 侑生

◆世田谷区史編さんだより 世田谷区政策企画課区史編さん担当

〒154-0016世田谷区弦巻3-16-8 世田谷区教育会館3階 TEL03-3429-4285

◇7 2023.3 A4 4p

高野山櫻池院文書調査

中世文書調査 国魂文書、大悲山文書、板橋幸一文書、東京大学文学  
部日本史学研究室所蔵文書

駒沢母子寮と「めぐみ保育園」—愛隣会とその時代

◆世田谷区誌研究会会報

〒158-0094世田谷区玉川3-30-5 野岸敏雄方 年2000円

<https://setagaya-kushiken.jimdofree.com>

◇2023-5 2023.5 A4 4p

世田谷の民話(45)

幕末の動乱で揺れた村 若林村／現在の民話のふるさと

作者・佐藤敏夫

世田谷の民話(46)

飴づくりの音五郎の笛の詩しらべ／飴の歴史と飴売り

作者・桜井正信

◇2023-6 2023.6 A4 6p

教えて世田谷 淡島森厳寺のこと

世田谷の旧家一覧

世田谷の民話(47)

代官様屋敷の火事見舞い／現在の民話のふるさと

作者・桜井正信

世田谷の民話(48)

天に向かってのびる大傘で野毛のかわうそが道案内

作者・桜井正信

◆大道芸通信 日本大道芸・大道芸の会

〒157-0061世田谷区北烏山2-3-9-101 光田憲雄 TEL03-3307-2146

<http://daidogei.info>

◇377 2023.4 A4 2p 100円

夏の行事から春の行事へ

◇378 2023.5 A4 2p 100円

初夏の生業 初夏交加図(『東都歳事記』) 初鰹売り／願人／不知／

勸化僧／菖蒲刀売りの屋台／苗売り／ちまき？

両国橋の夕涼み 両国納涼 (『東都歳事記』)

◆多摩地域史研究会会報

〒207-0033東大和市芋窪4-1735-1-103 梶原方 1991年創刊

<http://tamatikken.web.fc2.com>

◇154 2023.5 B5 8p

第114回例会報告 日野桑園跡地と桑ハウス見学参加記	事務局
日野桑園跡地と桑ハウス見学	太田 陽子
現地レポート続編1 航空爆弾を運んだ引込線	三村 章
現地レポート続編2 「廃棄された陶磁器手榴弾(容器)」その後	梶原 勝

◆多摩のあゆみ たましん地域文化財団

〒186-8686国立市中1-9-52 TEL042-574-1360 年600円 1975年創刊

<https://www.tamashin.or.jp>

◇190 2023.5 A5 102p

《特集 多摩の大学アーカイブズ》

大学アーカイブズと地域資料	瀬戸口龍一
一橋大学は2025年に創立150周年を迎えます	一橋大学学園史資料室
帝京大学に残された写真からみる東京の郊外	堀越峰之/甲田篤郎
麒麟児の行方—迷子の麒麟児は地域の宝になりうるか	石井奈穂美
武蔵野美術大学所蔵の民俗資料	
一府中・東大和・青梅市収集資料を中心として	小川 宏和
洋風建築への誘い(79) 玉川上水の流れ・橋・建物 その4	伊藤 龍也
建物雑想記(74) 桑都の養蚕民家 八王子長田養蚕	酒井 哲
古文書は語る(65) 疫病除けの護符文書とその伝播	
一川島家文書「疫病神の詫び証文」より	馬場 憲一
多摩の金融史(24) 西多摩郡西多摩村の産業組合と地方銀行	小島 庸平
多摩の歴史を立体視!—赤色立体地図の風景(17)	
中央線多摩川鉄橋と水害	小坂 克信

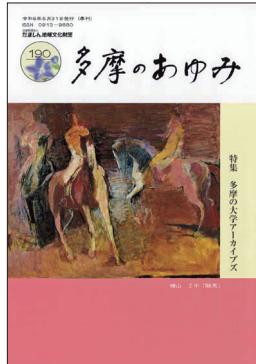
本の紹介

藤井常文著『中込友美と戦争孤児施設・久留米勤労輔導学園—詩を

愛し、江渡狄嶺を畏敬した男の挫折と彷徨の旅—』 山崎 文

杉並区教育委員会編『内田秀五郎と井荻町土地区画整理事業』 寺田 史朗

\*多摩地域にある、一橋大学学園史資料室、帝京大学総合博物館、日本獣医生命科学大学附属博物館、武蔵野美術大学民俗資料室が所蔵する地域資料の概要、活用の実態と課題を報告する興味深い特集である。



特集の総論で、専修大学大学史資料室長の瀬戸口龍一氏が、「機関アーカイブス」は地域資料となり得るのかと問いかける。同資料室はこれまでも地域の商店街や企業の求めに応じて、写真資料を積極的に提供してきた経験を持つ。また、明治大学史資料センターが創立者の出身地である鳥取などで、所蔵史料を活用した展示会を開催した例なども紹介している。大学アーカイブス所蔵資料を地域資料として活用するに当たっての展望の中で、地域貢献や地域連携が資料の保存意識に繋がることを期待すると述べている。

帝京大学は創立地の渋谷から、現在の八王子市大塚に移って来た経緯から、その立地に関係して、京王線とその沿線の発展や多摩ニュータウンの開発などに関する史料や写真を多く所蔵し、展示会を開催して話題になった。また、1970年代に放映されたテレビドラマ「仮面ライダー」は、練馬区の東映撮影所で制作されていたが、ストライキで使えなくなり、川崎市の生田スタジオを借りたことで、多摩地域の風景や帝京大学キャンパスが写り込んでいることから、映像資料としてのみならず、大学史、地域史の記録としても貴重であると指摘している。

日本獣医生命科学大学は80年前のキリンの全身骨格標本を所蔵する。キリンは手狭になった上野動物園から現井の頭恩賜公園自然文化園に移されている。標本は自然文化園の歴史を伝える存在であるという。

大学の歴史は地域の歴史と密接に結びついている。大学博物館、資料室はこれからも地域資料を積極的に収集し、地域へ公開するとともに、地域の人たちの研究、学習拠点の役割も果たして欲しい。

#### ◆東京産業遺産学会 NEWSLETTER

〒174-0046東京都板橋区蓮根2-29-10 新蓮根団地105 多田統一方 FAX03-3964-8548 / 〒352-0011埼玉県新座市野火止4-8-43 柚須絃一方 FAX048-479-7490 年2000円 <http://tias3.web.fc2.com>

◇160 2023.5 A4 6p

報告 東京国立博物館―建築物を訪ねる 文・写真 堀内仁之  
スチームハンマー特許取得180周年パネル展 「日本遺産―横須賀製鉄  
所 スチームハンマー誕生の謎―」まなびかん 文・写真 白石健一  
江東区で「江戸東京野菜」の特別展 「江東の農業」／北区では沢庵、  
お茶栽培も(馬場永子会員)  
横浜新港埠頭周辺見学会へのお誘い  
茨城県ひたなか市の赤煉瓦建築物(7) 「宮道架道橋梁」 文・写真 八木司郎

◆東京の文化財 東京都教育庁地域教育支援部管理課

〒160-0023新宿区西新宿2-8-1 TEL03-5320-6862 1979年創刊

◇133 2023.3 A4 8p

東京都指定文化財の新指定 東京都指定有形文化財(建造物) 市政会  
館及び日比谷公会堂 1棟／東京都指定有形文化財(建造物) 内藤  
家住宅 6棟 主屋、書院、蔵、書院の蔵、表門、庭門、土地付／  
東京都指定有形文化財(絵画) 紙本木版着色融通念仏縁起 2巻／  
東京都指定無形民俗文化財(民俗技術) 南多摩のメカイ製作技術／  
東京都指定天然記念物(植物) 迷子椎 1本  
世界で最も美しい橋 清洲橋 文・紅林章央  
文化財を活かす(練馬区) 東京都指定文化財(名勝及び史跡)  
牧野記念庭園(牧野富太郎宅跡)  
文化財を活かす(武蔵村山市) 武蔵村山市有形文化財「指田日記」  
「風流踊」ユネスコ無形文化遺産に登録決定 小河内の鹿島踊(奥多摩  
町)／新島の大踊(新島村)／下平井の鳳凰の舞(日の出町)

◆練馬郷土史研究会会報

〒179-0072練馬区光が丘5-2-3-806 鎌田茂男方 TEL03-3977-3091  
年2000円 1956年創刊

◇388 2023.4 A4 2p

豊島氏関係資料を読み直す 伊藤 一美  
豊島刑部少輔信満の刃傷事件とその背景(2)  
高札場 一月例会及び令和五年度総会  
5月例会新緑の秩父札所めぐり(3) 神門寺／龍石寺／岩上堂／観音  
寺(矢之堂)／永福寺(童子堂)／音楽寺／法泉寺／久昌寺(御手判寺)  
／円融寺(岩井堂)

◆ねりまの文化財 練馬区地域文化部文化・生涯学習課伝統文化係

〒176-0012練馬区豊玉北6-12-1 TEL03-5984-2442 1988年創刊

◇112 2023.4 A4 4p

令和4年度新規の指定・登録文化財 豊島家文書(登録有形文化財)  
／東本村の庚申塔(登録有形民俗文化財)

練馬区指定文化財一覧(No.1～49)／練馬区登録文化財一覧 有形文化財(No.1～126)、無形文化財(No.1～5)、有形民俗文化財(No.1～47)、無形民俗文化財(No.1～28)、史跡(No.1～14)、名勝(No.1)、天然記念物(No.1～11)

◆府中市郷土の森博物館紀要

〒183-0026府中市南町6-32 TEL042-368-7921 1988年創刊

<http://www.fuchu-cpf.or.jp/museum/>

◇36 2023.3 A4 32+66p 500円

府中市西部地域の古代集落

湯瀬 禎彦

「国分寺北院」採集の灰釉陶器

石澤 茉衣子

近世後期の神社における神仏関係一府中六所宮を事例に

小林 優里

屋根裏のお札群(2)一上染屋 宮沢家発見資料より

佐藤 智敬

根岸武香収集拓本コレクション

深澤 靖幸

◆民衆史研究 民衆史研究会

〒162-8644新宿区戸山1-24-1 早稲田大学文学学術院 藤野裕子研究室研究室  
気付 1962年創刊

◇105 2023.5 B5 116p 1750円

特集 制限のなかの移動・移住と共生

特集にあたって

民衆史研究会委員会

古代西海道の「辺境島嶼」と「越境」する人々

柿沼 亮介

壬辰戦争(文禄・慶長役)における朝鮮被虜人と降倭

一日本人になった朝鮮人、朝鮮人になった日本人

長森 美信

境界地域を問い続ける引揚者

一工藤信彦『樺太覚書』とサハリン島近現代史

中山 大将

越境する主体と共同体一コメントにかえて

檜皮 瑞樹

討論要旨

木下 開智

熊谷蓮心の牛馬放生所の設置意図一「表」の「諸願成就」と「裏」の

「借財済方」

ファンステーンパール・ニールス

書 評

萱場真仁著『近世・近代の森林と地域社会』 籠橋 俊光  
 大門正克・長谷川貴彦編著『「生きること」の問い方—歴史の現場か  
 ら』 松沢 裕作  
 堀川祐里著『戦時期日本の働く女たち』 町田 祐一  
 新刊紹介  
 吉村武彦編『律令国家の理念と実像』 原田 華乃  
 蔵持重裕著『むら人たちの生活モード—中世日本民衆生活史入門』 篠原 佑典  
 谷口眞子著『葉隠〈武士道〉の史的研究』 宇野 鈴音  
 会務記録 2022年度民衆史研究会総会議案 民衆史研究会委員会

#### ◆民俗芸能学会会報

〒169-8050 宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学演劇博物館内 TEL03-3203-4141  
 年6000円

◇115 2023.4 A5 8p

第二〇期民俗芸能学会代表理事を拝命して 茂木 栄  
 第二〇期第二回常務理事会

民俗芸能学会第193回研究例会 発表要旨 「『冊封琉球全図』に見る  
 冊封と琉球芸能」 茂木仁史 コメンテーター：小島美子 司会：  
 茂木栄、民俗芸能学会第194回研究例会 発表要旨 「三匹獅子舞」  
 の諸相と形態からみた特徴—神奈川県内の事例を中心に 鈴木通大  
 コメンテーター：高橋裕一 司会：加藤健司

#### ◆明治維新史学会だより

〒244-8539 横浜市戸塚区上倉田町1518 明治学院大学 吉岡拓研究室  
 2004年創刊 <http://www.ishinshi.jp/wordpress/>

◇31 2023.5 B5 21p

大会報告要旨

義民像の形成・展開と幕末の民衆運動—佐倉惣五郎像を中心に 鈴木 凜  
 江戸幕府直轄洋学所による諸藩への情報提供  
 —新聞貸出をめぐる一考察 佐々木千恵  
 西南戦争期の諷刺画—近世近代移行期における諷刺表現の継承と変  
 化、小新聞の視覚化 高橋 未来  
 明治陸軍におけるシュタイン国家学導入の試みとその限界  
 —桂太郎の陸軍機構改革を中心に 木多 悠介  
 町村制下における町村合併問題と村の「輿論」—村会・大字・個人  
 伊故海貴則

小特集「高校歴史教育の再編と現状」

生徒の「今」と歴史教育の今後	岩本 和恵
新科目実施における教育現場の現状と課題	高村 昭秀
例会報告要旨	
明治四〇年代の地域と国家的“偉人”	
―山口県熊毛郡による伊藤博文歓迎会と誕生地保存事業	上符 達紀
「民権運動家」とその「家族」について	
―「加波山事件関係資料」と「小針家」の分析から	飯塚 彬
文久三年の中央政局における加藤有隣(桜老)の位置とその役割	
―『榊陰年譜』を中心として	赤井 誠
近代移行期における国家司法・ムラ・イエ・女性の四角関係について	
―近世後期から明治前期の過渡期に起きた複数の強姦事件を通して	安 浚鉉
OCRテキストを用いた幕末維新史料横断検索システムの開発	中村 覚
幕末維新期における幕領「境目」地域の情報収集	
―広島藩領安芸国佐伯郡を事例として	大沼 大晟
奉勅攘夷体制と大名家の意思決定―一八・一八政変後から禁門の変に至る長州毛利家と七卿・浪士の関係から	熊野 一就
勝海舟の西洋諸国観と国柄評価―嘉永六年から明治期までの書簡・上書・回顧録等を分析対象に	和田 勤
明治初年の伊勢神宮をめぐる動向―明治二年式年遷宮を中心に	安部 玄将

◆明治維新史研究 明治維新史学会

〒244-8539横浜市戸塚区上倉田町1518 明治学院大学 吉岡拓研究室  
2004年創刊 <http://www.ishinshi.jp/wordpress/>

◇22 2023.5 B5 108p

公開講演会記録 在外日本関係史料の調査と幕末維新史研究

―幕末外国関係文書の編纂との三五年間にもとづいて	保谷 徹
明治零年代後半における庄内藩士族と君臣関係	
―家禄と松ヶ岡開墾の検討から	林 幸太郎
明治初期の「博物館」制度の特質―列品分類の中の史伝部に注目して	高久 彩

本会設立40周年記念企画 座談会 明治維新史学会の四〇年を振り返って  
出席者：松尾正人・牛米努・中川壽之 聞き手：藤田英昭・宮間純一

書評

上白石実著『十九世紀日本の対外関係—開国という幻想の克服』 鈴木 祥  
天野真志著『幕末の学問・思想と政治運動—気吹舎の学事と周旋』 熊澤恵里子  
新刊紹介

高木俊輔著『戊辰戦争と草莽の志士—切り捨てられた者たちの軌跡』

高田 祐介

伊藤之雄編著『維新の政治家と思想—一八六二～一八九五』

久保田 哲

池田勇太著『武士の時代はどのようにして終わったのか』

岩村 麻里

服部瑛著『古文書からみた幕末のコレラーコロナ禍に遭遇して』

大庭 邦彦

二〇二一年度第五一回明治維新史学会大会記事

二〇二一年度第五一回明治維新史学会大会討論要旨

鈴木乙都氏「元治元年における在京老中の登場と実態—稲葉正邦を  
中心に」

篠崎 佑太

三ツ松誠氏「不二道における復古神道受容の再検討」

池田 勇太

林幸太郎氏「明治初年における庄内家臣団と家禄—「分知」と「御  
家禄」の検討から」

宮間 純一

高久彩氏「明治一五年に開館した「博物館」に関する一考察—列品  
の文林体系と「史伝部」という分類項目の着目して」

天野 真志

二〇二一年度第五二回明治維新史学会大会記事

二〇二二年度第五二回明治維新史学会大会討論要旨

青野誠氏「幕末期地域社会における民衆教化と学問—早田伝之助と  
信達地方を中心として」

天野 真志

栗原伸一郎氏「戊辰戦争における仙台藩の藩情ち郡司之助と信達地  
方を中心として」

神谷 大介

渡邊桂子氏「西南戦争における「確報」流通策」

今村 直樹

出水清之助氏「自由民権期における地方政党と「無形結合」路線の  
形成—東北地方の動向を中心に」

内山 一幸

池田さなえ氏「別荘を中心とした近代日本の政治家ネットワーク形  
成—品川弥二郎・京都尊攘堂人脈の研究」

岸本 覚

#### ◆洋学史通信 洋学史学会

〒182-8585調布市調布ヶ丘1-5-1 電気通信大学大学院情報理工学研究所 佐藤  
賢一研究室気付 TEL0424-43-5592 <https://yogakushi.jp.org>

◇38 2023.4 A4 12p

洋学史学会と私 私のシーボルト研究

石山 禎一

2022年度3月例会報告

2022年度洋学史学会若手部会活動記録（3月10日現在）

文責・武正泰史



- 自著紹介 堅田智子『アレクサンダー・フォン・シーボルトと明治  
 日本の広報外交』 堅田 智子  
 新刊紹介  
 前田勉『江戸思想史の再構築』 青木 歳幸  
 多久島澄子編『幕末維新の洋医 大隈重信の秘書 峯源次郎日暦』 青木 歳幸  
 日本18世紀学会・啓蒙思想の百科事典編集委員会編『啓蒙思想の百  
 科事典』

## 神奈川県

### ◆厚木市史たより

〒243-0018厚木市中町3-17-17 厚木市教育委員会文化財保護課  
 TEL046-225-2060 2010年創刊

◇28 2023.3 A4 4p

戦後女性たちの暮しと罹災者 樋口 雄一

### ◆かまくら女性史の会 Newsletter

〒248-0012鎌倉市御成町18-10 N P Oセンター鎌倉気付 メールボックス26  
 2013年創刊 <https://kanagawajoseishi.jimdofree.com>

◇105 2023.5 A4 2p

今思う「教科書にない学びを伝える」ことが地域の大人の役割 渡邊 公子  
 シリーズ：私たちの「戦争体験」(30) 第6話「図們で空襲」 阿部 光世  
 旧図書館修復終了、「おなりこどもの家」に！ (曾原)

F☆L112 実行委員会はじまる 4月22日 (石崎)

◇106 2023.6 A4 2p

「生命と生命のひびき合い」のために 多和田真理子

シリーズ：私たちの「戦争体験」(31)

第7話「吉林駅で終戦を知る」 阿部 光世  
 『武相の若草』寄贈先決まる (横松)

「江戸の女性 現代の女性」6月3日 婦人子ども会館創立70周年記念  
 講演会 法政大学前総長・名誉教授 田中優子さん (石崎)

### ◆クロス 常民文化研究会

〒254-0016平塚市東八幡2-8-20 西海賢二方 年1000円 1979年創刊

◇173 2023.5 B5 6p

史料もて史料を、伝承もて伝承を 文化史学者としての民俗学者

—萩原龍夫先生からの指導によせて  
お知らせ「祈りの美 絵馬に願いを込めて 西海文庫コレクションよ  
り」 愛媛県西条市立西条郷土博物館

西海 賢二



\* 本号「後記」(70頁) 参照。

◆首都研ネットワーク 首都圏形成史研究会

〒231-0021横浜市中区日本大通3 横浜開港資料館内(事務局:西村健)  
TEL045-201-2169 年3000円 <http://shutokenshi.org>

◇97 2023.5 B5 4p

研究例会 2023年度総会・第125回例会 例会テーマ「戦後・京浜の  
日雇労働者と社会政策」/次回の研究例会 第126回例会(予定) 関  
東大震災100年(仮)

情報ネットワーク 展示会情報!

新刊案内 松本洋幸・大西比呂志編『首都圏形成の戦後史』

◆扣之帳 扣之帳刊行会

〒250-0021小田原市早川60 青木良一方 TEL0465-22-8852 年2500円  
2003年創刊

◇79 2023.5 A5 120p 500円

小田原藩領牛島村の人々の仕法 尾上 武

小説—幕末銀板写真倶楽部 ポトゲラヒ(11) 荒河 純

小田原・文学の小箱(9)—私のコレクションから

前田夕暮の歌軸など—房総での詠歌から 杉山 博久

続々・ボクの映画館(8)

ピリー・ワイルダーの収容所もの『第十七捕虜収容所』 平倉 正

図表手帳〈幻想微片〉	小濠 眞宝
『片岡日記』にみる明治後期の世相(1)	青木 良一
鉄斎の謎(5)	茂木 光春
『関東大震災被害報告』(1)	
小田原警察署 1923年(大正12)9月～11月記録	

◆藤沢市史研究 (続)藤沢市史編さん委員会

〒251-0054藤沢市朝日町12-6 藤沢市文書館 TEL0466-24-0171 1970年創刊

◇55 2023.3 A5 80p

渋谷荘と吉田荘—その荘域と関係、荘名の故地について	石塚 勝
明治・大正・昭和からの、学校における感染症との闘い	
—特に草創期、地域学校の感染症対策を中心に	伊藤 一美
曾瀬荒助の片瀬別荘と江の島の記念碑について	松本 洋幸
藤沢市における国際理解教育の始まり	
—1989年の入管法改正以前を中心に	渡辺 千尋

◆民具マンスリー 神奈川大学日本常民文化研究所

〒221-0802横浜市神奈川区六角橋3-27-1 TEL045-481-5661 年3500円

1968年創刊 <http://jominken.kanagawa-u.ac.jp>

◇662 (56-2) 2023.5 A5 24 350円

砥部焼の火鉢—砥部むかしのくらし館所蔵品について	高木 泰伸
美術の教育資源としての民具	
—『民具のデザイン図鑑』と展示の試みから	加藤 幸治
マンスリー掲示板 石巻市博物館 第5回企画展 石巻市博物館×武蔵野美術大学「民具のデザイン図鑑—くらしの道具から読み解く造形の発想」	

◇663 (56-3) 2023.6 A5 24p 350円

由緒書・授与品からみるハワイ出雲大社と沖縄県系・日系移民	松尾あずさ
普段づかひの博物館を目指して—茅ヶ崎市博物館づくり	須藤 格
民具短信 カラスの学校—明治大正の小学校校服(1)	神 かほり

◆大和市史研究 大和市役所文化スポーツ部文化振興課市史・文化財担当

〒242-0001大和市下鶴間1-1-1 TEL046-260-5336 1975年創刊

◇43 2023.3 A5 49+28p

稲荷信仰と稲荷講の諸相・形態・変容について	
—大和市域の事例を中心に	鈴木 通大

寅年薬師開帳上和田双盤念仏の記録

坂本 要

大和市出土の土器調理と残存脂質分析から見た縄文時代の食

白石 哲也

市史編さん事業の概要報告 令和元(2019)年～令和3(2021)年度

◆歴史よこはま 横浜歴史研究会

〒232-0022横浜市南区高根町2-8-12-1001 木村高久方 1984年創刊

<http://www.yokoreki.com>

◇84 2023.5 B5 60p

会長就任にあたり思うこと

熊本 修一

令和五年度定期総会・新春講演会開催

(編・記)

文豪「森鷗外」は藪医者だったのか

日本医学会に吹き荒れた脚気研究のあらまし

長谷川憲司

大伯皇女「宮」の日々の暮らし

遠田千代吉

徳川家康の「公家成」について

真野 信治

関東大震災被災者の横浜市民を救った関西村

木村 高久

退任挨拶

木村 高久

天帝思想は受け継がれていたか

松尾 光

幸齢者になっても

加藤 導男

た・まごの樹

瀬谷俊二郎

古歌を訪ねて・その十五～無常観の世界

丹下 重明

波の南蛮ほんのり明りゃ「幕末の豪商 浜崎太平次」

榎 良生

「おくのほそ道」における船旅について

長田 格

正倉院のなぜ… 色葉匂へど(8)

宮下 元

「洛西散策」我が庵周辺を楽しむ

高橋 正一

秋季歴史散歩 秋季歴史散歩「江戸文化の光と影」—裏浅草を歩く

雨宮美千代

班長の抱負(1) どうぞよろしく申し上げます

平博子／金子ユカリ／高田茂／清水豪志／長田格／佐藤猛夫

研究発表の概要 令和4年10月～令和5年3月

高尾隆／雨宮美千代

追悼の辞

前常任理事 山本修司さんを偲ぶ

高島 治

顧問 渡会裕一さんを偲んで

加藤 導男

谷川操一さんを悼んで

藤盛 詔子

山本編集長が紡いだ会報への思い

高尾 隆

会員活動報告 令和4年10月～令和5年3月

(編・記)

コロナに耐えた3年間 絆を大切に次代へつなごう！／横浜景勝地・

金沢八景に集う4年目の春

新潟県

◆郷土新潟 新潟郷土史研究会

〒950-2173新潟市西区五十嵐三の町東4-11 菅瀬亮司方

年4000円 1963年創刊

◇63 2023.3 A5 94p

表紙 「竹之図」(遠藤甘雨)

新潟県立図書館所蔵(「越後佐渡デジタルライブラリー」より)

近世越後における情報の伝達と収集

一越後に伝わる異国船襲来と北越戊辰戦争の事例 菅瀬 亮司

イザベラ・バード著『日本未踏の地』の「新潟の伝道に関する覚書」

の検証 小林 敏志

雑学王と呼ばれた地理学者 小泉蒼軒一十五歳までなぞの蒼軒

亀井 功

近世の紫竹山新田

富井 秀正

小特集「昭和・平成—私の思い出④」

昭和・平成 私の定かではない記憶 井上 昇

私の思い出・新入社員の頃 毛島 宏

生まれ育った地 鈴木 隆

「関屋分水」と「関屋競馬場」 竹内 公英

家 永井 裕美

下町に「地引網があった頃」の三つの思い出 渡辺 博

資料紹介 伊藤家「諸日記帳」(10) 伊藤 雅一

新刊紹介 横木剛『新潟の廻船問屋—近世・近代期の地方湊町における商人資本』 本田 雄二

◆高志路 新潟県民俗学会

〒950-0916新潟市中央区米山3-1-31-1101 金田文男方 TEL025-241-9402

1935年創刊 <https://fsnp.mints.ne.jp>

◇428 2023.6 A5 48p

越王・高志王・古志王と表記するコシオウ神社 高山 秀一

神社を祀る人々・地域 金田 文男

「北限のお茶」村上茶の発祥の歴史について 石田 哲彌

書 評

『句文集 花野原』を読んで 佐藤 和彦

駒形昶著「妻有今昔物語」 高橋由美子  
 岩野笙子著 室谷 新潟県東蒲原郡上川村「かみたに」のくらし 蒲原 宏  
 表紙写真 剣舞と獅子舞 場所：新潟市江南区沢海 金田 文男  
 令和5年度春の談話会及び役員会開催報告／令和5年度総会及び年会  
 開催報告

◆長岡郷土史 長岡郷土史研究会

〒940-0849長岡市長倉西町458-7 長岡市立中央図書館文書資料室内  
 TEL0258-36-7832 年3500円 1960年創刊

◇60 2023.5 B5 285p

《記念号》

口絵 郷土の歴史資料紹介(9)「誠者物之終始」三島億二郎書(長岡  
 市立中央図書館所蔵)／長岡郷土史研究会の活動一令和四年度

『長岡郷土史』第60号刊行記念特集

重ねて提言	内山 弘
「旅の者」経営史研究者の来し方、行く末	松本 和明
『長岡郷土史』と地域史研究雑誌	小熊 博史
『長岡郷土史』の歩みの中で	長谷川健一
『長岡郷土史』と私	
研究会創立六十周年に想う	太田 修
『長岡郷土史』と小さな歩み	小熊よしみ
「郷土史だより」の変遷	金垣 孝二
『長岡郷土史』と私と歴史文書館と	田中 洋史
「郷土再発見」—高校教育と郷土史	遠山 典子
『長岡郷土史』と『温古の栞』	西 和美
「長岡郷土史研究会」の幹事になって	西脇 恵一
引き継がれる『長岡郷土史』	廣瀬 剛
私と会誌 先達に学ぶ	堀井 實
長岡郷土史研究会員としての抱負	山沢 拓見
地域の歴史探訪、それはもうロマンです！	湯本 泰隆
『長岡郷土史』をつなぐ	米山 忠彦
馬高遺跡と長岡のヒスイ製大珠 越後長岡・火焰土器の話(9)	小熊 博史
『門察年譜』と門察和尚の徹底検証	石田 哲彌
魚野川の由来を探る(中)	中村 信行
城下町商業の動揺と在方商業統制についての一考察	山沢 拓見
農村の金策事情 富島の場合	山岸 利光

資料に見る貞心尼(1)

—「やけのの草」(良寛の里美術館蔵)から考察する  
龍馬と白峰駿馬

金垣 孝二  
廣瀬 剛

まちのうわさの継之助(1)

—塚野山村長谷川家文書に記された河井継之助の風聞  
河井継之助の神話学(下)

新田 康則  
土田 和弘

『塵壺』九州編—長崎への道

遠山 典子

小林虎三郎の『雪窓閑話』をひもとく(2)

小熊よしみ

梅浦精一と大倉喜八郎および石黒忠恵(1)

松本 和明

燕洋食器と長岡鉄工業

内山 弘

新保石五郎について

湯本 泰隆

桐谷洗鱗画業研究 志ざすところ(続)

深見 寶夫

「ながおか学」補説(6)—近代信濃川舟運を調べる(上)

米山 忠彦

古志郡道「蛇土手」と福島江用水路にかかわること

堀井 實

写真で見る・宮内西地域の福島江用水に架かる橋と世相

長谷川浩一

勤労奉仕と学徒勤労動員への回想—戦後七十七年を振り返って

小片 莊平

山本元帥の乗艦

小泉 秀也

長岡青年美術愛好会「風羅会」

猪本 爾六

三宅正一の無上菩提塔と胸像・補遺

星 榮一

越後は大玉花火のふるさとだ!—大玉花火の打ち上げの歴史

長谷川健一

長生橋と共に—大島地区の戦後の歴史を語る

神保 陸郎

新聞記事でたどる五・十市の歴史

林 朋子

地域探訪報告 良寛の里美術館特別展鑑賞とはちすば通り散策

佐藤 隆

開催報告 令和4年度 古文書解説講座

桜井奈穂子

資料紹介 令和4年度の長岡市委託事業から

三島郡深沢村吉野家文書について

西 和美

文化十三・十四年「日記並」(安禅寺文書)の翻刻について

林 朋子

文化十三年「諸掛合留」(安禅寺文書)の翻刻について

池田 茂

文化十三年「諸願書留」(安禅寺文書)の翻刻について

樺澤 幸子

長岡郷土史研究会 令和四年度会務報告

長谷川健一

『長岡郷土史』第45号～第59号 総目次

『長岡郷土史』創刊号～第60号 表紙索引(1960年～2023年)

郷土史の窓 (1)～(16)

#### ◆微笑仏 全国木喰研究会

〒422-8045静岡市駿河区西島462-4 森雅子方 年4000円 1993年創刊

http://plaza3.dws.ne.jp/~ub1988/

◇30 2023.3 A5 70p

《30周年記念号》

グラビア 釈迦如来像 海傳寺(青森県上北郡六戸町) 「はじめの一步」

／木喰仏油彩画シリーズ21 阿難陀尊者一清源寺・京都 石井 清嗣

はじめに 森 雅子

祝 機関誌「微笑佛」第三十号 岡本 信司

特集1 木喰が繋ぐ

ご詠歌と歩む 金亀山寶生寺和讃「微笑佛とぞ仰がるる」 内山 慶法

木喰仏と私 川崎 千絵

上浜念仏講に招かれ、木喰上人作薬師如来像と対面 小松 秀夫

木喰上人の鑿 望月富士夫

木喰仏巡り「山中家の善光寺如来像」 森 雅子

寄り添う心と姿勢、そして行動を 浅見 孝男

特別企画1 木喰ツアー2022(栃木・茨城) 秋の木喰関東ツアー 小宮山 繁

特別企画2 猪名川木喰会通信「すまいる」

vol.268(2022.4)／vol.270(2022.6)

特集2 木喰探求

柳宗悦の佐渡木喰調査と茅原鐵藏との交流について 北見 継仁

木喰仏の上塗り、彩色について 渡邊 一弘

全国木喰研究会秋のツアー「残念」二題。艶やかな「宇迦之神」像

と木喰の遺した「胎内仏」の所在 石井 久満

益子参考館の宇迦之神像について 渡邊 一弘

## 富 山 県

### ◆高岡市万葉歴史館紀要

〒933-0116高岡市伏木一宮1-11-11 高岡市民文化振興事業団

Tel.0766-44-5511 1991年創刊 <https://www.manreki.com>

◇33 2023.3 A5 135p 1000円

2022高岡万葉セミナー 9月3日

内舎人としての若い家持 廣岡 義隆

遠江・駿河・伊豆三国と万葉集―「ゆたけし」をめぐって 平館 英子

『万葉集』の部立名としての「相聞」 鄧 慶真

「玉梓の道」の起点と終点―越中における大伴家持の作歌意識 井ノ口 史

上代の「越」字に関する覚書―「趨」との通用関係に関わって 垣見 修司



春日野作歌考	鈴木 崇太
あらたに収蔵した断簡二葉について	
—「拇尾類切」と伝兼好筆「名所歌集」	新谷 秀夫
吉田包春作・正倉院模造宝物「子日目利箒」「粉地彩絵倚几」(高岡市 万葉歴史館蔵)と大伴家持の玉箒の万葉歌について(2)—注釈史的視 点で	田中夏陽子
展示余滴 万葉閑話四題	関 隆司

## 石 川 県

### ◆加南地方史研究 加南地方史研究会

〒923-0903小松市丸の内公園町 小松市立博物館内 TEL0761-22-0714

1955年創刊 <http://kananchihoushi.com>

◇70 2023.3 B5 81p

《創立70周年記念号》

写真特集 一〇年間の活動

巻頭言

祝辞 お祝いの言葉

新修小松市史と市史講座—資料編を読みとくために

外佐見村とは「佐見村・濱佐見村・安宅新村」の関係

小松の俳誌『蜂』『群蜂』について

人生90年を振り返る—新聞・手紙・学会冊子等

酒井家文書整理(1) 水運関係

『小松旧記』より遊行上人廻米(小松)について

那谷寺所蔵 慶応四(明治元)年「御触留書」について

私を育ててくれた加南地方史研究会

国宝めぐりの青空教室

青空教室について

『青年とは? 青年団とは』を考える

川良夫先生の思い出

会員になって寄与したこと

後世に残す「記録」～歴史の編纂寄与したこと

創立五〇周年記念集合写真撮影

加賀立国一二〇〇年国府の歴史を学ぶウォークラリー大会

国府地区史跡マップの発行について

コロナ禍に振り回された日常生活

橋本 正準

石黒 和彦

山前 圭佑

岡田 孝

綿拔 豊昭

池端 大二

山前 圭佑

橋本 正準

室山 孝

山前 圭佑

橋本 正準

伊井 虎男

石田 進

井上 恵子

岡田 孝

木原 浩二

坂下 和夫

高 酋外

高 酋外

津田 修

昔の能美郡の金融会社・銀行 寄生地主

加南地方史研究会に入会して

バックトゥザ加南史!!

会員特別寄稿 加南地方史研究会と私

会誌 六一号より七〇号までの目次一覧（会務報告等除く）

平成二十五年より令和五年三月までの活動報告一覧

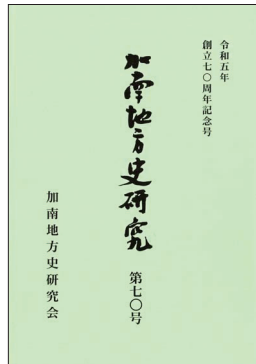
加南地方史研究会七〇年の歩み

鉄野 雅晴

南 秀実

山崎みどり

山本 政廣



\*加南地方史研究会は1954年に川良雄を会長に、44名の会員（現在は81名）をもって発足した。会誌は翌55年に創刊されている。

活動は、研究発表の場である月例会、ほぼ毎夏の青空教室、3月には会誌の発行を続けている。

70周年に当たり、橋本正準現会長の巻頭言のほか、14人の会員が思い出を寄稿している。その中に、入会動機を青空教室があるからと記した会員がいる。ほかにもこれに触れている会員が少なくない。青空教室は、1959年から始まった歴史史跡を訪ねて学ぶフィールドワークで、同会の目玉の活動といってもいいだろう。県内はもとより、遠く福島県の会津鶴ヶ城などにも足を延ばし、通算で65回を数えている。

2013年の60周年には、『こまつにゆかりの人物伝』、70周年では、『目で見える小松の歴史4 平成のこまつ』を刊行した。橋本氏は、「今後も自己研鑽に励み、豊かな郷土へとさらなる活動に精進し、小松市の文化発展に寄与したい」と記している。

## 山 梨 県

◆MARUBI ふじさんミュージアムだより

〒403-0005富士吉田市上吉田2288-1 TEL0555-24-2411

<http://www.fy-museum.jp>

◇48 2023.3 A4 16p

博物館Report ふじよしだのたからもの～富士吉田市の埋蔵文化財  
富士吉田市埋蔵文化財マップ／コラム1 富士山の火山災害と縄文  
人／コラム2 古吉田と富士道／コラム3 小佐野と古吉田と上吉  
田／富士吉田市の埋蔵文化財内訳(58件)

## 長 野 県

◆飯田市美術博物館研究紀要

〒395-0034飯田市追手町2-655-7 TEL0265-22-8118 1990年創刊

<https://www.iida-museum.org>

◇33 2023.3 A4 42p

野本次男宛菱田春草書簡

小島 淳

松尾島田八幡宮神宮寺文書 伊原壽昭・織田顕行

宮崎三郎兵衛の追放—新出史料からみるその背景

前澤 健

◆飯田市歴史研ニュース 飯田市歴史研究所

〒395-0803飯田市鼎下山538 TEL0265-53-4670

<https://www.city.iida.lg.jp/soshiki/39/>

◇124 2023.6 A4 4p

飯田市歴史研究所2023年度研究計画

新スタッフ紹介 伊坪達郎特任研究員 1950年飯田市生まれ 専門：

近世史／前澤健特任研究員 1962年岐阜県高山市生まれ 専門：近  
世史

リレーミニエッセイ(30)―歴史研20年を振りかえる

出会い直し、学び直す

多和田真理子

第20回飯田市地域史研究会予告 飯田下伊那の学制と地域社会

「人づくり」から「人なる」へ／ワークショップ「研究者アーカイ  
ブズと地域史研究」

◆伊那路 上伊那郷土研究会

〒399-4117駒ヶ根市赤穂11193-7 吉田保晴方 年6000円

◇796 (67-5) 2023.5 A5 40p 600円

《中央アルプス特集》

中央アルプスにおけるライチョウ復活事業 小林 篤  
高山帯におけるニホンザルライチョウ保護の観点を踏まえて 杉本 淳  
中央アルプスにおける山岳信仰とライチョウについて 小池 勝典  
中央アルプスの成立 下平 眞樹  
水河湖「濃ヶ池」保護・保全・復元への取り組み 後藤 寛  
令和4年度上伊那郷土研究会会計報告

図説・上伊那の民俗(69) 西天竜頭首工水神祭(箕輪町木下) 三石 稔  
徒然さんば(46) 赤そばの里 箕輪町 絵と文・吉田勝美

◇797 (67-6) 2023.6 A5 40p 600円

NPO法人子ども・若者サポート「はみんぐ」20年のあゆみ  
—上伊那子どもサポートセンターからNPO法人はみんぐ 桜井 裕記  
晩年の井月 宮原 達明  
第10回井月忌の集い、井月忌俳句大会報告 吉田 保晴  
石匠貞治の石仏地域別現在地 飯島 隆人  
宮田村の島崎藤村揮毫の西行歌碑と恩師・小田切良彦先生(3) 吉田 保晴  
古文書の窓(173) 客死した父の墓所の件で一札 下平すみ子  
図説・上伊那の民俗(70) 馬見塚蚕玉様の祭り(駒ヶ根市福岡) 三石 稔  
徒然さんば(47) 山寺やきもち踊り 伊那市山寺区上村 絵と文・吉田勝美

◆信濃 信濃史学会

〒399-0036松本市村井町南1-28-35 年10200円 TEL0263-58-1213

<http://www.shinano-shigakukai.jp>

◇880 (75-5) 2023.5 A5 80p 1150円

小特集「諏訪」

諏訪大社上社本宮鎮座起源についての考古学的考察 鶴飼 幸雄  
一〇〇〇年の変遷に見る、諏訪湖・御渡りの本質 坂間 雄司  
「マンガでよむ『諏訪大明神絵詞』」が本になるまで 五味 夏希  
歴史研究と特別支援教育試論—新たな歴史の見方の模索 郷道 哲章

◆辰野町資料 辰野町文化財保護審議会

〒399-0427上伊那郡辰野町中央1 辰野町教育委員会事務局文化係

TEL0266-41-1681 1951年創刊

◇128 2023.3 B5 74p

七蔵寺の百体観音（はじめに、七蔵寺百体観音と関係資料、七蔵寺百体観音の検証、百体観音建立に参画した村と村人、百体観音と太子像の施主から年代を考察、百体観音の並びを復元する）

三浦 孝美

◆長野県民俗の会通信

〒384-2104佐久市甲135 田澤直人方 TEL0267-88-6927 年5000円

<http://nagano-minzoku.chu.jp>

◇295 2023.5 B5 10p

コロナ禍中の御柱祭(2)一病と共存する祭り

太田 真理

葉書でつぶやくコーナー 「有り難う」に「有り難う」一透析室春秋

倉石 忠彦

第二三四回例会参加記

田澤 直人

静岡県

◆静岡県近代史研究会会報

〒422-8526静岡市駿河区谷田52-1 静岡県立大学国際関係学部 森山優研究室  
年4000円 <https://shizuokakenkindaishi.wordpress.com>

◇536 2023.5 A4 4p

5月例会レジュメ

殖樹神社建立計画からみた、林業家殿岡嗽石と日本平

西田かほる

静岡県の勤労働員・戦没学徒数

枝村 三郎

金原家異聞(その2)(2) 金原醇一の足跡

小池 善之

◇537 2023.6 A4 4p

6月例会レジュメ 高大連携で取り組む金原明善の研究

伴野 文亮

金原家異聞(その2)(3) 大逆事件とその後

小池 善之

すべての武器にA I (人工知能)を

羽間 昭夫

◆静岡県地域史研究 静岡県地域史研究会

〒412-0043御殿場市新橋1891-1 厚地淳司気付 年4000円 2011年創刊

◇12 2022.9 A5 51p

「小山評定」研究の現段階

本多 隆成

近世後期三島宿拝借金と宿場町の維持について

平林 研治

総会記録/例会記録

◇12別冊 2022.9 A5 176p

《第12号別冊 歴史随想編》

序

小和田哲男

歴史随想 『静岡県地域史研究会会報』第1号(1981年4月25日)～第  
243号(2022年7月5日)

◆静岡県地域史研究会報

〒412-0043御殿場市新橋1891-1 厚地淳司気付 年4000円 2011年創刊

◇248 2023.5 B5 4p

飯尾連龍妻お田鶴の方の虚実 小林輝久彦

例会告要旨 3月例会(卒業論文発表会)

遠江・駿河の狐憑き 野口 琴葉

近世後期豪農の格式と地域一浜松藩領有玉下村高林家を題材に 小杉 勇人

例会告要旨 2月例会

三島市域の文化財把握について 平林 研治

三島大社と源頼朝 森田 香司

◆静岡県民俗学会会報

〒424-0053静岡市清水区渋川1-9-35 <http://web.thn.jp/s-folklore/>

◇187 2023.6 A4 6p

静岡市葵区井川に受け継がれてきた雑穀の今 多々良典秀

シリーズ食(46) 白糸唐辛子 外立ますみ

静岡の民俗語彙・方言短信

トリックラ ナリックリ/イコジカ/オレモチ/コウモチ 報告者・外立ますみ

イット 報告者・川口円子

◆駿河 駿河郷土史研究会

〒417-0061富士市伝法66-2 富士山かぐや姫ミュージアム内

TEL0545-35-6250 1965年創刊

◇77 2023.4 B5 107p

表紙解説 源平富士川の戦いの図 加藤 昭夫

巻頭言(令和四年) 民話を楽しむ 加藤 昭夫

吉原の老舗店に伝わる菓子道具—和菓子を演出する木型・紙型 内田 昌宏

富士川治水余話 壊された堤防 “一番だし二番だしとききょう堤” 加藤 昭夫

富士山からの湧き水の郷・原田 楠 昌明

「御殿」という地名の由来についての一考察 篠原巳津夫

旗本の陣屋Ⅱ～旗本領・幕府領(代官)・甲府領 高田 國義

戦中戦後の記憶 西ヶ谷廣和

随想 黒露と吉原三遅をめぐって	渡辺 誠
金原明善伝(1)―更生保護制度の創始者	若竹 秀信
日常生活の数学(10)	渡邊 照好
スンハンノちをきを追って	渡辺 誠
遺稿 神力神社「神力寺」と望月氏について	伊藤 忠正
会議(総会・理事会・事務局会議・各専門部等)の活動報告	

## 愛 知 県

- ◆あつた 熱田神宮宮庁  
〒456-8585名古屋市熱田区神宮1-1-1 TEL052-671-4151  
<https://www.atsutajingu.or.jp>
- ◇278 2023.4 A5 48p  
当神宮宝物「熱田神宮境内図(享禄古図)」に描かれた人物から見る熱田信仰の一断面 細谷 公大  
熱田神宮御礼遇に関する一考察(3) 飛岡 秀樹
- ◆まつり通信 まつり同好会  
〒458-0006名古屋市緑区細口3-161 田中青樹方 TEL052-877-3497 年5000円  
1961年創刊 <http://www.wa.commuja.jp/matsuri/>
- ◇625 (63-3) 2023.5 A4 10p 600円  
表紙写真の言葉 願人踊り 秋田県八郎潟町一日市 須藤 功  
アイヌの熊送り 須藤 功  
東京・野上の獅子舞 石川 博司  
岐阜県輪之内町四郷の「ぞうすい祭」について 入山 美穂  
学会・研究会情報／受贈資料紹介(587)

## 滋 賀 県

- ◆彦根城博物館だより  
〒522-0061彦根市金亀町1-1 TEL0749-22-6100 1988年創刊  
<http://www.hikone-castle-museum.jp>
- ◇141 2023.6 A4 4p  
企画展 仰ぎて天文を見る―江戸時代の天文学・暦学・星占い―  
天象列次之図 当館蔵  
展示案内 テーマ展 展示室1 滋賀県指定有形文化財指定記念 彦

根藩筆頭家老木俣清左衛門家文書、テーマ展 展示室1 井伊直亮  
の雅楽器収集一大コレクション形成の現場、企画展 展示室1 仰  
ぎて天文を見る—江戸時代の天文学・暦学・星占い—、企画展 展  
示室1 関東大震災から100年 災害と井伊家伝来資料  
研究余録 金亀玉鶴 磯崎家文書から見る彦根藩船役所の業務 荒田 雄市

## 京 都 府

### ◆史迹と美術 史迹美術同致会

〒606-8048京都市上京区下立売通小川東入西大路町146 中西ビル内  
TEL075-462-4292 年8000円 1930年創刊 <https://www.shibikai1930.com>

◇934 (93-4) 2023.5 A5 30p 918円

五輪塔の起源と卒塔婆の変遷について(上) 木下 浩良  
九州の石塔調査報告 10. 浄水寺跡南无如法妙法蓮華経塔 佐藤 誠  
画論研究3 『画筌』の研究—現代語訳付(10) 寺本 健三  
第1103回例会 奈良市西部秋の浪漫溢れる三ヶ寺を訪ねる 田中 康夫

## 大 阪 府

### ◆泉佐野の歴史と今を知る会会報

〒596-0845岸和田市阿間河滝1425 井田寿邦方 TEL0724-28-0204 年1200円

◇425 2023.5 B5 12p

史料紹介 山本家文書 大木・禅徳寺と食野家 井田 寿邦  
戦国の幕府中枢の動きを跡付け 『旅引付』等を読む会  
史料紹介 泉州の寺社(23) 佐野村九社関係文書 藤田家文書6-1-2  
春日大明神御遷宮札写 正徳二(一七一二)年

◇426 2023.6 B5 12p

「喜志宮文書」松浦肥前守光禁制 嶋中 佳輝  
「山直神社」由緒書を巡る三つの迷宮—山直郷内畑村の行方(3) 池田 雅治  
史料紹介 泉州の寺社(24)  
時雨林庵関連文書(1) 山本家文書31(1)-2-58 口上覚

### ◆大阪歴史懇談会会報

〒536-0008大阪市城東区関目2-3-2 アンティークショップ一兵内 TEL06-6931-  
1081 年5000円 1984年創刊 <http://osakarekikon.cocolog-nifty.com>

◇461 (40-3) 2023.3 B5 8p



巻頭言 神のおやしらのこと(81) 日吉大社 和久 敦也  
令和5年2月例会報告(第423回)

『縄文の土器・土偶』大阪歴史懇談会理事 進行・井川光正 (報告・井川)  
ブック・インフォメーション 特集・歴史図書案内 『田原坂』増補  
新版(中公文庫プレミアム) 橋本昌樹、『西南戦争のリアル 田原  
坂』(シリーズ「遺跡を学ぶ」153) 中原幹彦、『田原坂の戦い 西  
郷どんの西南戦争』回天～明治維新の終焉 岡本顕美、『征西従軍  
日誌』――巡査の西南戦争(講談社学術文庫) 喜多平八郎(著)・  
佐々木克(監修)

◇462 (40-4) 2023.4 B5 8p

巻頭言 神のおやしらのこと(82) 春日大社 和久 敦也

思い出の例会 第330回例会 平成26年2月16日 大阪市立弁天町民学  
習センター第二研修室 『野口英世の中国体験』―野口評価の一視角  
本会役員 片倉穰氏

会員の書評 『百鬼夜行絵巻の謎』(集英社新書 ヴィジュアル版)

(小松和彦・著 集英社)

評者・井川光正

ブック・インフォメーション 特集・歴史図書案内 『豊臣秀頼』(歴  
史文化ライブラリー) 福田千鶴、『大坂の陣と豊臣秀頼』(敗者の  
日本史) 曾根勇二、『秀頼脱出』―豊臣秀頼は九州で生存した 前  
川和彦、『豊臣大坂城』―秀吉の築城・秀頼の平和・家康の攻略(新  
潮選書) 笠谷和比古・黒田慶一

#### ◆河内長野市郷土研究会誌

〒586-0032河内長野市栄町21-11 椋本進方 TEL0721-52-3394 年3000円  
1979年創刊

◇65 2023.5 B5 47p

巻頭言 椋本 進  
郷土を去る 浅井 五郎  
三日市に屋敷があった林又右衛門(伝承) 椋本 進  
建水分神社の地車宮入り順序と水上権一水による神々の統一(注1) 玉城 幸男  
新コロナウイルスについて 松本弘(裕之)  
第22回知ったはりまっか?河内講座(現地ウォーク講座) 文責・椋本進

#### ◆近畿文化 近畿文化会

〒543-0001大阪市天王寺区上本町6-5-13 上本町YUFURA 7階  
TEL06-6775-3686 年2200円 <https://www.kintetsu-g-hd.co.jp/culture/bunka/>

◇882 2023.5 A4 8p 300円

元興寺の歴史と伝説

服部 光貞

旧大和川を歩く(6)―淀川に合流する大和川

安村 俊史

◇883 2023.6 A4 8p 300円

大津市域の石造物

佐藤 亜聖

大寺の展開―百濟大寺・大官大寺・大安寺

森下 恵介

#### ◆古代史の海 「古代史の海」の会

〒573-0084枚方市香里ヶ丘6-4-9 上遠野浩一方 年4000円 1995年創刊

<http://kodaishinoumi.sakura.ne.jp/kodaishi/>

◇109 2023.4 A5 64p 1500円

巻頭言 ChatGPT について

上遠野浩一

2021年古代史総括

森岡 秀人

桓武天皇と皇位継承―姪五百井女王と甥五百枝王姉弟

木本 好信

アンデス通信(62) クリストフ・マコウスキ博士と「様式」

―特に空間認識のあり方について

市木 尚利

新刊紹介

中村修著『乙訓の原像・続々編』

上遠野浩一

木本好信著『奈良時代』

上遠野浩一

任那―ウチツミヤケとは何か

渡部 正路

飛鳥大仏の造立と補修についての一考察

山下 輝幸

#### ◆堺研究 堺市立中央図書館

〒590-0801堺市堺区大仙中町18-1 堺市立中央図書館総務課図書館サービス係

TEL072-244-3811

◇45 2023.3 A5 122p 640円

表紙解説 絵葉書「南海鉄道大和川上り電車」 堺市立中央図書館所蔵

口絵 和田村上村絵図(美木多和田家文書)

南海鉄道の創立・初期経営過程に於ける佐々木政义の理念と行跡

―松本重太郎との関わりを通して

宇田 正

近代移行期の泉州における藩領村々と統治機構の再編

―関宿藩泉州領を中心に

島田 克彦

史料紹介 堺県布達について(2)

大久保雅史

#### ◆城だより 日本古城友の会

〒577-0044大阪市西成区玉出中2-11-28 平川大輔方 TEL06-6652-4511

<http://www.kojyo-tomonokai.com>

◇653 2023.5 B5 24p

山城 一乗寺山城・雲母坂城を訪ねる(6月・第716回) 令和5年6月4

日(第1日曜日) 今回の見どころ

4月・第714回例会

探訪先:伊勢 鹿伏兎城 担当幹事:小川実・下岡力 報告・下岡 力  
会員通信 長崎の城 諫早城を訪ねて 坂本 昇

別冊(B4 5頁) 第715回 美濃玉城(旗本西高木陣屋)を訪ねる

担当幹事:平川大輔・森田又一

◇654 2023.6 B5 22p

大和 郡山城を訪ねる(7月・第717回) 今回の見どころ

5月・第715回例会 探訪先:美濃 西高木家陣屋

担当幹事:平川大輔・森田又一

報告・森田又一

会員通信 長崎県の石田城(福江城)跡を訪ねて(前編) 坂本 昇

別冊(B4 6頁) 第716回 山城一乗寺山城・雲母坂城を訪ねる

担当幹事:小川実・下岡力

#### ◆つどい 豊中歴史同好会

〒560-0054豊中市桜の町4-6-27-208 小川滋方 月1000円

1988年創刊 <http://toyoreki.way-nifty.com>

◇415 2023.5 B5 16p

再掲 阿武山古墳の真相—乾漆棺と地下式墓 森田 克行

飛鳥西部の遺跡を訪ねる 古高 邦子

◇416 2023.6 B5 18p

「任那」以後—六世紀後半の日朝関係 田中 俊明

住吉大社・帝塚山古墳と天王寺周辺の史蹟を訪ねる 村瀬美和子

第三十五回定期総会報告

#### ◆ヒストリア 大阪歴史学会

〒657-8501神戸市灘区六甲台町1-1 神戸大学大学院人文学研究科

古市晃研究室気付 1951年創刊 <http://www.historia-osaka.on.arena.ne.jp>

◇297 2023.4 A5 93p 900円

特集 城郭研究への今後の期待

特集にあたって 大阪歴史学会企画委員会(委員長 北山峰生)

「戦国・織豊期権力論と城郭研究」に参加して 岡寺 良

「戦国・織豊期権力論と城郭研究」参加記 藤本 史子

「戦国・織豊期権力論と城郭研究」に参加して考えたこと	永恵 裕和
様工の基礎的予察	三野 拓也
予算要求の論理から見たワシントン会議における海軍内の対立	手嶋 泰伸
わたしたちの文化財 藤白神社の熊野三所権現本地仏坐像	大河内智之
書評	
義江明子著『推古天皇』	遠藤みどり
岩下哲典編著『「文明開化」と江戸の残像 一六一五～一九〇七』	加藤 真生
報告 市庭古墳(平城天皇楊梅陵)の改修工事に伴う立会見学の報告	山田 暁
委員会報告 第5回・第6回	市 大樹
◇298 2023.6 A5 135p 900円	
特集 高輪築堤の今後に向けて	
特集にあたって	大阪歴史学会企画委員会
高輪築堤をめぐる現状と課題	斉藤 進
高輪築堤と近現代の考古学的調査・研究の展望	梶木 理央
近世後期大坂における大工組の存立構造	田坪 賢人
大正期神戸の市史編纂と歴史意識	
—『神戸市史』編纂と史料をめぐる	戸部 愛菜
地域の歴史を守り伝える	
史跡・博物館の新しい伝え方・楽しみ方の実践	福田 和浩
書評 高槻泰郎編『豪商の金融史 廣岡家文書から解き明かす金融イ ノベーション』	須賀博樹・早川大介
2023年度大会報告要旨	
考古・部会報告	
戦国期の瓦生産	岡本 健
近世大坂における瓦の生産と流通	市川 創
古代・部会報告 日本古代の国郡行政と村落社会	村上 菜菜
中世・部会報告	
中世前期における全国的内乱と奥羽地方	大島 佳代
中世前期の荘園制支配と荘官	永野 弘明
近世・部会報告	
近世後期代官役所の金融仲介と貸付	
—近江国信楽代官役所を事例に	平田 良行
幕末大坂における本屋仲間と出版統制	石橋 知之
徳川家康による大坂城西ノ丸入居と天守構築をめぐる	中村 博司
近代・個人報告 近衛新体制期の国策研究会と民間経済界	
—「官民一致」・「官吏独善」をめぐる	茶谷 翔

報告 「第五七回「建国記念の日」不承認二・一一大阪府民のつどい」

について

江坂 正太

委員会報告 第7回・第8回

市 大樹

## 兵庫県

### ◆家系研究 家系研究協議会

〒675-0101加古川市平岡町新在家1745-203 馬原浩一方 TEL079-424-0921  
年5000円 1981年創刊 <http://www.geocities.jp/kakenkyou/>

◇75 2023.5 B5 130p 1500円

豊後大友氏と少弐氏・島津氏の初祖に関わる諸事情

宝賀 寿男

古書に見える珍姓・難読姓(76)

安原 繁利

室町初期甲斐武田氏三代

真野 信治

先祖調べは大人の総合学習(5)―ネットで先祖調べ

新生国会図書館デジタルコレクションの利用

野口 裕子

古代氏族との接点について(再考)―異説および新たな視点の検討

斎藤 秀幸

土佐国楠木氏の楠瀬氏

岡田 有史

福島県東白川郡川上白石氏の出自に関する研究レポート

木下 祐也

薩摩刀匠 浪平正国一千年秘話 刀鍛冶の里(12-3)

浪平 博司

表紙家紋「糸輪に括り猿」

馬原 浩一

### ◆家系研究協議会会報

〒675-0101加古川市平岡町新在家1745-203 馬原浩一方 TEL079-424-0921  
年5000円 2002年創刊 <http://kakenkyou.g2.xrea.com>

◇84 2023.5 B5 8p

旧徳川公爵家の家じまい

馬原 浩一

家系研究協議会 令和4年度 冬の例会報告

『嘉納治五郎とその周辺』馬原浩一(本会執理事務)

今話題のチャット GPT を使ってみました

(馬原)

### ◆生活文化史 史料館だより 神戸深江生活文化史料館

〒658-0021神戸市東灘区深江本町3-5-7 TEL078-453-4980  
1981年創刊 <http://fukae-museum.la.coocan.jp>

◇51 2023.3 B5 28p

表紙 元禄5年(1692)に尼崎藩に提出された「社寺吟味帳」の深江村  
分の写し

江戸時代の正寿寺(1) 新史料「社寺吟味帳」から	大国 正美
深江在住音楽家の演奏記録について	有吉 康徳
深江物語(13) 本庄小学校の話(1)	森口 健一
深江の心象風景(3) 六甲山をめぐる人々	岡田 茂義
『週報』と『家の光』の寄贈にあたり	田中 裕行
史料館この一年を振り返って	

#### ◆西宮文化協会会報

〒662-0974西宮市社家町1-17 西宮神社内 TEL0798-33-0321

<http://nishinomiya-ebisu.com/bunkyo/>

#### ◇662 2023.5 B5 8p

六月行事 文化講演会 「秦森泰屯と西宮ゆかりの作家たち 一九五

〇年代～一九九〇年代」西宮神社会館 西宮市大谷記念美術館学

芸課長 枝松亜子氏

令和四年度 事業報告／令和五年度 事業計画／令和五年度役員

西宮の橋梁—西宮歴史調査団の調査成果(5)

トビシのある道と大井手橋

早栗佐知子

『西宮神社文書』第三巻刊行に寄せて

戸田 靖久

会員活動報告 『伏見稲荷大社』にて『能楽奉納』を鑑賞 中村宏／山本純子

#### ◇663 2023.6 B5 8p

七月行事 文化講演会「津門大塚町遺跡の発掘調査について—渡来系

遺物からみる古墳時代の津門地域—」兵庫県まちづくり技術セン

ター埋蔵文化財調査部技術職員 池田旭氏

八月行事 第三回伝統芸能の夕べ 狂言『夷毘沙門』鑑賞会 西宮神

社拝殿前特設舞台

西宮の橋梁—西宮歴史調査団の調査成果(6)

旧津門川の流路を伝える橋

早栗佐知子

三月行事 春の見学会を開催しました 兵庫県立兵庫津ミュージアム

会員活動報告 神戸ハーバーランドにて『交通安全広報』 中村宏／山本純子

#### ◆歴史と神戸 神戸史学会

〒657-0845神戸市灘区岩屋中町3-1-4 田中印刷出版内 TEL078-871-0551

年3000円 1962年創刊

#### ◇358 (62-3) 2023.6 A5 49p 600円

《特集 神戸空襲を記録する会と中田政子さんの歩み》

はじめに

文責・辻川 敦

## 神戸空襲を記録する会と中田政子さんの年譜

### 第一部 中田政子さんをしのぶ

そして、バトンはつながりました	玉井 洋子
抵抗運動のバトン	宮沢 之祐
記録すること、語り継ぐことの大切さ	たかとう匡子
中田さんとの出会い	長 志珠絵
十六夜会	富士 繁一
「神戸空襲を忘れないーいのちと平和の碑」除幕式	
受け継ぎ、伝える一母と記録する会	馬場 敦子
記録する会や中田さんの活動を拝見して	田辺 真人
「中田政子さんをしのぶ会」の開催	小城 智子

### 第二部 空襲の記憶と記録を伝え続ける

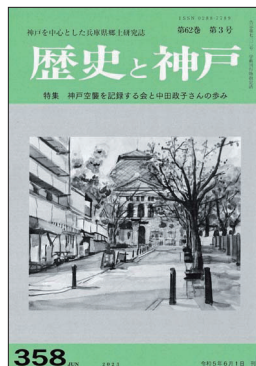
神戸空襲を記録する会と「戦災アーカイブ」	長志珠絵／佐々木和子
神戸空襲を記録する会の今後について	岡村 隆弘

第二部 空襲の記憶と記録を伝え続ける 遺族の立場から	中田 悟
ひょうご史こぼれ話	

数奇な運命をたどった播磨極楽寺瓦経	大槻 守
酒米品種「山田錦」の誕生と三木市吉川町金会の現地試験	池上 勝

新聞地域版を読む 神戸新聞の文化財記事(2015年3月1日～3月18日)

大国正美／有吉康德



\*神戸空襲を記録する会の第3代代表中田政子さんが、2021年6月に亡くなられた。中田さんは1945年9月に神戸市兵庫区生で生まれた。実家はその半年前、3月の空襲で罹災し、祖父と姉を失い、身籠っていた母親も大やけどを負っている。母親は1971年に発足した同会の世話人を、中田さんは1997年から2019年まで代表を務めた。

中田さん自身は空襲の体験はなく、活動家タイプではなかったが、しなやかな力強いリーダーシップを発揮し、数多くのことを成し遂げたという。毎年3月の慰霊祭、6月の戦跡ウォーク、学校での空襲お話し会、2000年と2014年の空襲・戦災を記録する会全国連絡会議神戸大会の開催、戦後60年(2005年)と70年(2015年)の内橋克人講演会、大倉山公園への「神戸空襲を忘れないーいのちと平和の碑」建立、神戸空襲資料整理作業開始などが上げられる。

中でも、高校への戦災語り部活動と小学校での空襲お話し会、資料整理への着手は重要な活動である。

特集では多くの人たちが、中田さんを悼み、同時に中田さんからのバトンは確かに受け取ったと力強く記している。素晴らしいことである。

中田さんから代表を引き継いだ岡村隆弘氏は、「神戸空襲を記録する会の今後について」で、中田さんが碑建立に際して述べた、「わずかな字の向こうに、ひとつの命があります。幼児を残して逝かなければならなかった母親の悲しみがあります。想像してみてください。この碑の後の空白の部分を眺めて想像してください」との言葉を引き、神戸空襲を記録する会の使命は、先人から受け継いだ戦災と空襲の記録を伝え続けること、それは、命と平和の大切さを問い続けることに他ならないとして、これからも、「私たちは「一人一人の命を大切に、平和を願う市民」となり、多くの市民に広げていきたい」と結んでいる。

## 和歌山県

### ◆熊楠研究 南方熊楠顕彰会

〒646-0035 田辺市中屋敷町36 南方熊楠顕彰館内 TEL0739-26-9909

1999年創刊 <https://www.minakata.org>

◇17 2023.3 A5 278p 4000円

特集 南方熊楠と中国の古典籍

南方熊楠漢籍蔵書の特徴ー内藤湖南と比較して	金 文京
南方熊楠と類書・本草学書	
ー『淵鑑類函』と『本草綱目』との関わりをめぐって	司 志武
南方熊楠と『大唐西域記』	高 陽
南方熊楠邸での漢籍調査に従事して	池田 宏
「一者なるもの」との邂逅ーマイスター・エックハルトの説教と南方熊楠の土宜法龍宛て書簡にみられる類似事項に関する考察	橋爪 博幸
神社祭祀問題における県議会議員毛利柴庵の活動と南方熊楠	武内 善信
南方熊楠の睡眠時間と熊楠伝説	
ー日記の記述と手紙などとの記述との相違から	雲藤 等



『N & Q』への草稿の翻刻と分析

—「アジアのオルフェウス」「悪魔学における鳥の鉤爪」ほか 志村 真幸  
南方熊楠書簡資料 脇水鉄五郎来簡(一九三五年～一九三六年)

郷間秀夫・岸本昌也編

南方熊楠標本資料 南方熊楠の日光採集標本関連資料 土永 知子

南方熊楠自筆資料 大英博物館所蔵フランクおよびリード宛て書簡

田村義也・松居竜五・志村真幸・ブラダン ゴウランガ チャラン編

◆熊野情報 熊野歴史研究会

〒647-0011新宮市下本町2-2-1 新宮市教育委員会文化振興課 山本殖生

TEL0735-23-3368 年3000円

◇228 2023.5 B5 2p

総会と研修講演会は7月6日/メソポタミアン美術館で 3月16日/ク

リーブランド美術館にも 3月17日/東大熊野フォーラム in 新宮

5月28日/歴史探訪スクール/『熊野歴史研究』25号/事務局より

◆国際熊野学会会報

〒647-0011新宮市下本町2-2-1 新宮市教育委員会文化振興課

TEL0735-23-3368 年3000円 2005年創刊

◇39 2023.5 A4 4p

熊野比丘尼を配下にした熊野本願寺院

山本 殖生

2023年度国際熊野学会 国際熊野学会大会 in 京都本願寺大会「真宗

本願寺と熊野信仰」

島根県

◆郷土石見

〒699-5611鹿足郡津和野町町田イ139-2 山岡浩二方 TEL0856-72-0794

1976年創刊

◇119 2023.3 A5 114p 1200円

文化は、コロナより強し 島村抱月生誕百五十年祭に寄せて

岩町 功

大内義弘の益田退治が及ぼした影響(2)

岩崎 健

石見銀山につづく山峡の石造アーチ橋(2)

—乙立町睦谷川の石造アーチ橋

高橋 悟

私生活を綴った歌日記—人麻呂歌集についての考察(4)

安達 肇

人麻呂臨死し鴨嶋は高津と地続きであった

中島 耕二

勘四郎の名をもって	登米 茂行
舞手から見た石見神楽の変遷と伝播と継承	
一演目「鐘旭」を事例に舞の変遷とものづくりを語る	小川 徹
「石見神楽ロマン」	影山喜久子
フランス文学者 石川湧疎開顛末記	山崎 壽夫
ツクシ(土筆)摘みのわらべ歌	酒井 董美
キツネとサンと久次郎じいさん	金田サダ子
柿本人麿時代における江津周辺の状況	川原 和人
日貫の記録3 日貫 藤間家(隅田屋)について	山田 明子
日貫の記録4 日貫 安原家(大森より)について	山田 明子

◆大社の史話 大社史話会

〒699-0751出雲市大社町杵築西2695-1 稲根克也方 TEL0853-53-4966

年2500円 1974年創刊

◇214 2023.4 B5 40p

私の出雲大社訪問(1) 四つの鳥居をくぐって	木村 進
『吉兆神事と大社歌謡』のご紹介	大社神謡保存会
大社本殿真菰注連縄考(2)	田中 文夫
コラム 弁天島(沖御前)の由来	山崎 裕二
出雲地域の歴史と文化(21-2)	
大社造系本殿の形式と出雲地方における分布(2)	野坂 俊之
紙上「古文書講座」基礎編(4)	出雲市文化財課
読者コーナー 読後感「出雲大社造営文書を読む」を読んで	馬庭 孝司
令和4(2022)年10月～12月 出雲市大社町年表	編集部
春季企画展「平安時代の出雲～人びとのくらしと祈り～」	

出雲弥生の森博物館(文責・高橋周)

出雲弥生の森博物館 ギャラリー展「ハエのさなぎから探る古代の葬	
式」	出雲弥生の森博物館(文責・坂本豊治)
春季企画展「出雲神楽」	鳥根県立古代出雲歴史博物館
表紙写真 標柱が建てられ、整備の進む稲佐の浜(撮影・勝島徹正)	
大社町美術協会写真部長)	

岡山県

◆岡山地方史研究 岡山地方史研究会

〒700-0013岡山市北区伊福町2-16-9 ノートルダム清心女子大学文学部

久野研究室気付・小野功裕 TEL086-252-2482 年1500円 1986年創刊  
<http://historyokayama.s1009.xrea.com>

◇159 2023.5 B5 36p

備前岡山の東照宮祭礼—藩主綱政の時代、前編 田中 豊  
史料紹介 銀座経営時代の吉岡銅山関係史料 安国 良一  
二〇二二年四月例会 特別企画「博物館の仕事—役割と現状—」(2)  
多様な期待と要求が向けられる博物館の在り方をめぐって 飯島 章仁  
資料館と友の会の四〇年—津山洋学資料館からの事例報告 小島 徹  
読書日記 小川雄・柴裕之著『図説徳川家康と家臣団』 小林雄一郎

◆岡山民俗学会会報

〒700-0089岡山市北区津島本町16-5-3 小嶋博巳方 年4000円  
<http://okayamaminzokugakkai.web.fc2.com>

◇230 2023.5 B5 12p

おっさんどこなら八塔寺 平松 典晃  
研究会発表要旨  
11月例会  
胸上八幡宮例祭 藤原 翼  
基層としての「雑密」—報恩大師と千手観音信仰 松本 宣秀  
2月例会 民俗と地域活性化—「道西喜代吉氏画集」の可能性 武井 優薫  
岡山県内甘蔗・砂糖生産について  
—近現代の赤磐市の事例を中心に(研究ノート) 田中 愛弓  
2023年度研究発表大会  
備中真鍋島のサンゴ奉納習俗 武井 優薫  
児島郡東部の聴聞行事 平松 典晃  
現代版「草鞋親」への着目 鶴 理恵子  
新刊紹介  
茂木明子編『柳田國男のペン—書入れにみる後代へのメッセージ』 小嶋 博巳  
小嶋博巳『六十六部日本廻国の研究』 難波 俊成  
学会記事 2023年度総会報告  
別冊(4頁) 受贈図書・雑誌 目次抄録(2022年11月~2023年4月受贈分)

広島県

◆芸備地方史研究 芸備地方史研究会

〒739-8522東広島市鏡山1-2-3 広島大学文学部日本史学研究室内

TEL082-424-6643 年3000円 1953年創刊 <https://geishi.hiroshima-u.ac.jp>

◇322 2023.3 A5 90p 600円

特集 サカスタ予定地の地下に眠る広島城跡を考える

特集「サカスタ予定地の地下に眠る広島城跡を考える」にあたって

芸備地方史研究会

広島城跡発掘調査の成果と課題

小都 隆

中世後期・近世史研究から見た広島城の位置づけ

光成 準治

建築から見た広島城

佐藤 大規

松江城下町遺跡の調査成果とその活用事例について

川上 昭一

書評 光成準治著『列島の戦国史9 天下人の誕生と戦国の終焉』

動 向

新聞記事から（2018年1月～6月）

広島県の地方史研究 雑誌目録／研究活動

#### ◆備陽史探訪 備陽史探訪の会

〒720-0824福山市多治米町5-19-8 TEL084-953-6157 <http://bingo-history.net>

◇239 2023.5 A4 20p

古代山城「茨城」の探索と備陽史探訪の会

田口 義之

古代山城 茨城(ぬばらのき)推定地の合同踏査について

松尾 洋平

ワンショット・レポートーぶら探訪・津之郷から赤坂を歩く

中世石造物の調査報告

福山城天守北壁面の鉄板装甲の目的 I 一勝成は何を考えていたのか

瀬良 泰三

用之江森山城跡について

杉本 憲宏

刊行しました！ 田口義之著『新備後古城記』

近世福山の歴史講座(45)

第九部 水野時代総集編 四代勝種の時代(その2 勝種治世後編) 高木 康彦

史料紹介 井上家文書(6) 口上之覚

文責・小林悠一

葛原幽の作詞の校歌から歌詞にこめた郷土の地名など

種本 実

備陽史探訪の会NEWS 「古代の山城「茨城」か 研究会有志ら 芋

原地区遺構を調査」 「山陽新聞」2023年3月14日

#### ◆みよし地方史 三次地方史研究会

〒729-4304三次市三良坂町三良坂2747 中畑和彦方 TEL0824-44-2753

1987年創刊

◇120 2023.4 A4 20p

三次における「応変隊・新隊」について

一幕末から明治初期にかけた結成された農兵隊に関する文書から 三次地方史研究会2022(令和4)年度事業報告	中畑 和彦
三次盆地の前方後円墳(26) 切田第一号古墳一調査報告	加藤 光臣
志賀神社の六神儀(ろくじんぎ)神楽について	立畑 春夫
三次地方の古文書あれこれ(1) 『芸藩通志』編纂に関わる文書	中畑 和彦

◆わが町三原 みはら歴史と観光の会

〒723-0051三原市宮浦6-9-32 鈴木方 年3600円 FAX0848-63-9932

◇386 2023.5 B5 12p

表紙 佐倉山を彩る満開の桜 2023.4.02 撮影：大原哲子(港町)

今月の各地 僕イノシシの猪助です No.1

行長 啓三

昭和15年の三原の電話事情

西村 雅幸

◇386別冊 2023.5 B5 22p

昭和15年12月 三原市電話帳(含む 糸崎、須波)

(「三原大観 前編」、三原大観刊行会、昭和15年12月23日)

◇387 2023.6 B5 12p

表紙 雨も止んだハイキングの熱気 2023.4.12

撮影：西村雅幸(沼田東町)

今月の各地 楽しみな大河ドラマ

津島 敏子

春のハイキング感想

令和5年 レキカン春のハイキングの感想

吉岡 利文

令和5年春のハイキング「雙照院・金剛寺」に参加して

小森キヨミ

春のハイキング 田野浦 雙照院・金剛寺コースに参加して

友宗 邦夫

徳島県

◆史窓 徳島地方史研究会

〒771-0220板野郡松茂町広島四番越11-1 松茂町歴史民俗資料館内

TEL088-699-5995

◇53 2023.3 A5 74p 1363円

天正十三年の四国平定戦前後の阿波

一中近世移行期の政治情勢をめぐって

山下 知之

山田織部(真恒)の系譜を示す史料「山田内膳成立勤功書」、「山田内膳

拝領屋敷絵図」及び「屋敷改帳」を中心として

間吾 純男

宝暦四年「四国辺路道中覚」

岡本 佑弥

史窓のひろば 追悼 大和武生先生

金原 祐樹

徳島地方史研究文献目録(2021年10月～2022年9月)

活動記録 2021年10月～2022年9月

## 愛媛県

### ◆伊予史談 伊予史談会

〒790-0007松山市堀之内 愛媛県立図書館内 1915年創刊

◇409 2023.4 A5 51p 750円

河野通信と北条時政女の婚姻について 小野 翠

三間岡本合戦考一天正九年説における評価をめぐって 中平 景介

歴史余話 明月「扶桑樹伝」の注釈書について

一本即明源信恭「国字扶桑樹伝」 島崎 達也

参加記 高虎サミットに参加して 南條 高輝

動向 湯築城資料館 開館二十年のあゆみ

一指定管理者制度導入以降について 神石 都

新刊紹介 山内譲著『伊予の中世をきた人々一室町時代』、平井上

総編『戦国武将列伝10 四国編』、愛媛県歴史文化博物館『学校の  
宝物』 編集部

郷土その日その日 自令和4年10月至令和4年11月 編集部(柚山俊夫)

例会記事 第1280回 豊後の儒学者毛利空桑と宇摩郡三島村の私塾日  
新館 野村尚明氏、民俗学者・宮本常一、愛媛県下の足跡一写真資  
料に関する考察 高木泰伸氏／第1281回 大正時代の道後温泉一平  
源右衛門 野本健氏、愛媛鉄道の軌道跡をたどる 竹井賢二氏／第  
1282回 さまざまの森盲天外 森二郎氏、松野町大井手井堰の中近  
世河川灌漑と廣福寺修験 十亀幸雄氏

## 福岡県

### ◆市史研究ふくおか 福岡市博物館市史編さん室

〒814-0001福岡市早良区百道浜3-1-1 TEL092-845-5245

2006年創刊 <http://www.city.fukuoka.lg.jp/shishi/>

◇18 2023.3 A4 130p

《特集 考古学からみた福岡の歴史》

特集「考古学からみた福岡の歴史」にあたって 宮本 一夫

福岡平野の自然環境の変遷と遺跡

一博多湾沿岸と那珂川流域を中心に 宗建郎／磯 望

土器中に眠る家屋害虫の痕跡とその意義	小畑 弘己
弥生時代の始まりと福岡平野	宮本 一夫
博多湾沿岸地域の古墳時代後期社会—那津官家の時代	辻田淳一郎
骨考古学からみた博多遺跡一人と動物たち	富岡 直人
考古編完結座談会 自然と遺跡からみた福岡の歴史	
宮本一夫／小畑弘己／磯望／有馬学／菅波正人／宮井善朗／辻田淳一郎	
大宰府政庁の改修	杉原 敏之
資料紹介 宮内庁書陵部所蔵『聯句』にみる策彦周良の周辺	岡本 真
福岡市史編さん事業活動記録(令和4年1月～12月)	

## 長 崎 県

### ◆浜木綿 五島文化協会

〒853-0052五島市松山町604-10 筑田俊夫方 TEL0559-74-2667

◇115 2023.5 A5 138p

旧木ノ口潜伏キリシタン墓地調査報告会を共催	
五島の潜伏キリシタン墓と旧木ノ口墓所調査の意義	加藤 久雄
旧木ノ口墓所の調査成果	野村 俊之
五島氏庭園裏手全容を描く一島と風の起点	増田 常德
酒屋町春秋(3) 「子供のデパート」	高橋 恆晴
ハラボジ オイ ジョセヨ	石田ちとえ
五島灘を渡った雲水の旅路(3)—人生の新たなマイルストーンへ	巨海 玄道
京の片隅で(10)	伴 靖子
横浜だより(1) 随想二題	柳田 煌海
海外の旅 トルコ周遊(1)	尾崎 朝二
ピアノ(2) 門出の歌	森下 寛子
福江藩校育英館記碑	中村千代治
思い出すことなど(5)	内海 紀雄
追悼記 民泊茶房「おもてなし」の浦松若さんを偲んで	櫻井 隆
コラム 復帰／五十六才／山川静夫さんと歌舞伎／掛け売り／銘々膳	(筑)

## 宮 崎 県

### ◆石の証言 「八紘一宇」の塔を考える会

〒880-0026宮崎市波島2-30-2 佐藤文則方 年2000円 1995年創刊

◇111 2023.4 A4 14p

石の証言 満州里神社 45×60cm 花崗岩 中国・興安北省満州里市  
(マンチュウリ)

塔案内 医療生協大塚支部「花見ハイキング・塔の見学会」／福田鉄文さんの3冊目の著作『アジア太平洋戦争と宮崎県 県民はどのような戦争を体験したか』／宮崎文学賞 会員・杉尾周美さん／お知らせ 「八紘一宇」とは何か英文パンフレット

私説 塔の思想 バベルの塔／アレクサンドリアの大灯台／エッフェル塔／ワシントン記念塔／諸国民戦勝記念碑／爾靈山 税田啓一郎

追悼のことば

福田鉄文さん 税田啓一郎

渡部学さんを偲ぶ 文責・黒木憲夫

追悼 渡部学さん 土岐 宗春

知念正真作戯曲『人類館』から「沖縄」を考える(1)一人類館事件 杉尾 宏

全国各地の「八紘一宇」の石碑(1) 東京隅田川にかかる千住大橋の南側「八紘一宇の碑」(荒川区南千住)／八紘一宇の国旗掲揚台(先住神社) (追分)

時事放談 杉尾 宏

読書案内 並木浩一・奥泉光著『旧約聖書がわかる本』 杉尾 宏

## 沖 縄 県

### ◆宮古郷土史研究会会報

〒906-0013平良市下里1223-8 下地和宏気付 TEL0980-72-9963

年3000円 1977年創刊 <https://kyodoshiken.ti-da.net>

### ◇256 2023.5 B5 8p

五月定例会レジメ 宮古蔵元の草創と終焉 下地 和宏

六月定例会レジメ 大嶽城跡を訪ねる 事務局

宮古の織物―三月定例会を終えて 下地 和宏

第四七回定期総会 事務局

『宮古島市総合博物館紀要』第二七号の紹介 與那覇史香

書籍紹介 第五版『観光コースでない沖縄』 下地 和宏

新崎寿浩氏製作「プロヴィデンス号」模型の紹介 與那覇史香

投稿企画「私のイチ推し文化財」市指定文化財第一号「大和井」 仲宗根將二

初期琉球王朝と日本商人の動き―十一月例会「海の帝国」論に寄せて

大西 威人

宮古広域消防組合の設立経緯 長濱 幸男



## 寄贈図書紹介

### ◆最上川流域の後期旧石器文化の研究5 丸森1遺跡

東北文化資料叢書13 考古学資料

東北大学大学院文学研究科考古学研究室編 東北大学大学院文学研究科東北文化研究室 (〒980-8576 仙台市青葉区川内27-1) 2023年3月 A4 221頁

東北大学大学院文学研究科考古学研究室・東北大学総合学術博物館が主体となって行った山形県最上郡真室川町に位置する丸森1遺跡の第1次～3次(2008～2010年)発掘調査の研究報告書。第1章 調査の目的と背景／第2章 丸森1遺跡の概要(遺跡の立地と自然環境・地形、周辺の後期旧石器時代遺跡と歴史環境)／第3章 発掘調査の概要(調査の経緯、調査の方法)／第4章 発掘調査の成果(基本層序、後期旧石器時代の遺物と遺構)／第5章 出土遺物の分析(遺跡形成過程、遺物の空間分布、石器の形態的特徴と製作技術、使用痕分析、秋田県南部から山形県北部にかけての石材調査)／第6章 自然科学分析(丸森1遺跡の炭化材の樹種、丸森1遺跡のテフラー火山ガラスの産出状況、放射性炭素年代測定、土壌学的分析、丸森1・丸森2遺跡出土黒曜石製石器の原産地分析)／第7章 考察(丸森1遺跡の出土資料の一括生とその編年、丸森1遺跡における石器の加工技術、丸森1遺跡の石器の機能と場の機能、遺跡内の空間構造、当該期石器群における行動論的考察)／第8章 総括／引用参考文献／図版

### ◆天神信仰史の基礎的研究

眞壁俊信著 (〒966-0817 福島県喜多方市字三丁目4814 FAX0241-22-5159／〒166-0001 東京都杉並区阿佐谷北5-3-7 TEL03-3337-6097) 2023年4月 A4 245頁 3500円+税

『天神信仰史の研究』(続群書類従完成会、1994年)をはじめとする天神信仰研究を続ける著者の最新刊。平安時代中期以降、現代に至るまでの天神信仰史の概容、『天神縁起絵巻』のさまざま、天神の諸相、天神の諸像についてまとめる。序／天神信仰の概要(平安時代、鎌倉時代、南北朝時代、室町時代、安土桃山時代、江戸時代、明治大正昭和時代、平安時代(「菅家」へのふりがな))／天神信仰史の風景(『天神縁起絵巻』のさまざま 『土佐天神縁起』一卷、『鎌倉在柄天神縁起』三巻、『天神縁起絵巻』一卷、宗淵本『天神縁起』、建治本『天神縁起』上巻 断巻、『天神縁起絵』)／天神の諸相(天神の名号、文台と硯箱、紙幣の肖像、切手、天神の民芸品、天神の人形、菅原伝授手習鑑)／天神の諸像／あとがき

### ◆千葉三郎文書調査報告書 上・下 茂原市史調査報告書8

茂原市史編さん委員会編 (〒297-8511 千葉県茂原市道表1 教育委員会教育部 茂原市立美術館・郷土資料館 TEL0475-26-2131) 茂原市教育委員会刊 2023年3月 A4 上:236頁 下:128頁

茂原市制施行70周年を迎えて新たに刊行を開始する『茂原市史』の1冊目「資料編Ⅰ(原始・古代、中世考古)」と同時刊行となる市史編さん事業報告書第8集。茂原市出身の政治家としてよく知られ、第一次鳩山内閣では労働大臣を務めた千葉三郎の約70年にわたる日記を中心に貴重な史料を初めて紹介する。

〔上巻〕 口絵／はじめに(小関悠一郎)／刊行にあたって(加藤時男)／一、代表的史料と解説 (一) 千葉三郎日記(明治四十三年、明治四十四年、大正十年、大正十一年、大正十二年、昭和二年、昭和三年、昭和十九年、昭和二十年、昭和二十一年、昭和二十二年、昭和二十三年、昭和二十四年、昭和二十五年、昭和二十六年、昭和二十七年、昭和二十八年、昭和二十九年、昭和三十年)

〔下巻〕 口絵／一、代表的史料と解説 (二) 千葉三郎の政界進出(関和知の補欠選挙 大正十四年、第一回普通選挙 昭和三年)、(三) 千葉三郎あて書簡(千葉彌次馬、石井菊次郎、武藤山治、添田寿一、鈴木貞一、牟田口廉也、大橋忠一、小野田寛郎、小川左右民、常岡昇)、(四) 南総鉄道の敷設(昭和十四年)、(五) サンフランシスコ講和会議参加記録(昭和二十六年)、(六) 千葉県知事選二付覚書(昭和四十五年十二月)、史料の解説／二、千葉三郎関係文書目録 千葉三郎関係資料の寄贈の経過、(一) 藤沢市 千葉三郎家文書目録(千葉三郎記念館収蔵) 第一次寄贈分、(二) 藤沢市 千葉三郎文書目録 第二次寄贈分／付 参考資料(千葉三郎略伝(1894-1979)、千葉三郎年譜、千葉三郎家略系譜、戦後保守政党の変遷、鈴木貞一氏を訪ねて(加藤時男))／茂原市の主な歴史関係刊行物リスト

#### ◆文化財としての食文化 無形民俗文化財の新たな広がり

第17回無形民俗文化財研究協議会報告書

東京文化財研究所無形文化遺産部編・刊(〒110-8713 東京都台東区上野公園13-43 無形民俗文化財研究室 TEL03-3823-4925) 2023年3月 A4 129頁

2023年2月1日に開催された第17回無形民俗文化財研究協議会の内容をまとめる。序にかえて(齊藤孝正)／趣旨説明(久保田裕道)／第一部 基礎講座 食文化の保護・継承にかかる国の取り組み(野添剛司)、日本料理の美意識(柳原尚之)、文化財としての食文化の広がり(今石みぎわ)／第二部 事例報告 食文化保護の実践―滋賀の食事文化研究会の取り組みについて(長谷川嘉和)、食を調査する―秋田県の郷土食調査事業(伊藤隆一)、食文化の活用と新しい展開―小豆島の木桶仕込醤油を世界に!(黒島慶子)／第三部 全体討議 コメント: 竹内由紀子 パネリスト: 柳原尚之・長谷川嘉和・伊藤隆一・黒島慶子・前田俊一郎・大石和男 コーディネータ: 久保田裕道・今石みぎわ 総合司会: 後藤知美／参考資料 アンケート集計結果

#### ◆清瀬市史 資料調査報告 5 資料編近世補遺「御用留」

清瀬市編・刊(〒204-8500 東京都清瀬市中里5-842 清瀬市企画部シティブロモーション課市史編さん室 TEL042-492-5111) 2023年3月 B5 141頁

市制施行50周年を記念する新『清瀬市史』の第2冊として刊行された『清瀬市史4 資料編 近世』(2022年3月)の補遺編として、未収録の御用留等8点を収録する。口絵／御用留解題／文政12年(1829)正月～9月 下宿村御用留／文政13年(1830)正月～天保4年(1833)9月 下宿村御用留／天保4年(1833)8月～11月 下宿村御用留 断簡／弘化4年(1847)正月～嘉永2年(1849)正月 下宿村御用留／文久元年(1861)10月・3年正月～8月 中里村御用留／文久3年(1863)正月～4年正月 中里村御用留／文久3年(1863)3月～9月 中里村御用留／寛政11年(1799)10月 下総足川村門訴一件書留／御用留細目一覧

#### ◆厚木市史 古代通史編

厚木市教育委員会社会教育部文化財保護課文化財保護係編 厚木市(〒243-8511 神奈川県厚木市中町3-17-17 TEL046-225-2060) 2023年3月 A5 746頁

1985年から刊行が開始された『厚木市史』の第15回配本として、古墳時代から奈良・平安時代までの厚木地域の事象を叙述。また付編として、『厚木市史』古代資料編(1)(2)刊行後に行われた主な遺跡の調査成果も収録する。口絵／序(山口貴裕)／刊行に当たって(望月幹夫)／監修に当たって(鈴木靖民)／第一章 古墳時代の厚木(弥生時代から古墳時代へ、厚木と周辺地域における古墳、古墳時代の集落と生活、相武国造と丹沢南東麓、ヤマトケルの東征と厚木)／第二章 相模国愛甲郡の成立(律令国家の地方支配、相模国・愛甲郡の交通、愛甲郡周辺の豪族と支配拠点)／第三章 愛甲の古代社会(村のくらしと生業、いのりとまじない)／第四章 古代社会のさらなる探求(発掘された文字資料と古代社会、災害と古代社会、中世への胎動)／付編 遺跡補遺 依知地区、睦合地区、小鮎地区、玉川地区、南毛利地区、相川地区／参考文献

#### ◆藤沢の戦国時代 藤沢市史ブックレット12

真鍋淳哉著 藤沢市文書館(〒251-0054 神奈川県藤沢市朝日町12-6 TEL0466-24-0171) 2023年3月 A5 125頁

(続)藤沢市史編纂にあたって市史の内容をわかりやすく紹介するブックレットの第12冊。応永23年(1416)の上杉禪秀の乱の発生前後から、天正18年(1590)のいわゆる「小田原合戦」によって戦国大名小田原北条氏が滅亡するまでの約180年間における藤沢地域の戦国時代の様相について考察する。口絵／まえがき／第1章 戦国時代の定義／第2章 藤沢の戦国前夜／第3章 関東大乱と藤沢／第4章 北条氏の相模経略と藤沢／第5章 玉縄城主と玉縄衆／第6章 北条氏による藤沢の支配／第7章 天下統一と藤沢／参考文献／図版・写真目録／あとがき

#### ◆歴史をひもとく藤沢の資料7 遠藤地区

藤沢市文書館編・刊(同上) 2023年3月 A4 94頁

1967年開始の藤沢市史編さん事業による『藤沢市史資料所在目録稿』1～25(1969年～1994年)等をふまえてまとめられた地区別の資料解説・目録集。御所見地区

(2016年)、村岡地区(2017年)、片瀬地区(2018年)、湘南台地区(2019年)、善行地区・湘南大庭地区(2020年)、長後地区(2021年)につづく第7集。発刊にあたって／画像でみる遠藤(遠藤地区とは、遠藤村と寶泉寺、「丘が招いた」もの、空から見た遠藤地区、旧小出村・御所見村の旧地形と史跡図、遠藤村の字境と集落立地、カメラが捉えた遠藤地区)／遠藤の歴史をひもとく(地誌に見る遠藤の寺社、数値で見る遠藤、地図・絵図目録、遠藤村の成り立ちと藤元寺・寶泉寺、江戸時代の寶泉寺とその役割、遠藤民俗聞書一丸山久子と藤沢の民俗、遠藤の暮らしと行事、「丘が招いた」もの―北部・西部開発から「健康と文化の森」へ)／遠藤の歴史資料(各資料群の概要、「藤沢市文書館資料目録(遠藤地区)」(CD-ROM収録)について、もっと詳しく知りたい人へ、藤沢市行政区画変遷表、藤沢市および周辺行政区画変遷図)／付属CD-ROM 藤沢市文書館資料目録(遠藤地区)、藤沢市文書館写真目録(遠藤地区)／都市計画総括図遠藤地区抜粋(2022年4月版)

#### ◆目で見る小松の歴史④ 平成のこまつ

加南地方史研究会編・刊(〒923-0903 石川県小松市丸の内公園町 小松市立博物館内 TEL0761-22-0714) 2023年4月 B6 90頁

石川県小松市を中心とする加南地域において活発な郷土研究活動を行っている加南地方史研究会の創立70周年記念出版。既刊『目で見る小松の歴史①② 昭和以前のこまつ』『目で見る小松の歴史③ 昭和のこまつ』に続き、平成元年1月から31年4月までの「広報こまつ」への連載から主要な58項目を取り上げ、写真・図版を入れて小松の平成時代をわかりやすく解説する。

#### ◆菊田日記④ 第十九番～第二十四番 富士吉田市歴史民俗博物館資料叢書5

富士吉田市立歴史民俗博物館(ふじさんミュージアム)編(〒403-0032 山梨県富士吉田市上吉田東7-27-1 TEL0555-24-2411) 富士吉田市教育委員会刊 2023年3月 A4 297頁

1979年開館の富士吉田市立歴史民俗博物館(ふじさんミュージアム)の資料叢書第5集。令和4年度に実施した古文書調査の成果として、御師菊田(菊屋)の当主菊田式広道による享和3年(1803)から天保6年(1835)までの『菊田日記』(市指定有形文化財)全36冊のうち、第2集(2018年3月)・第3集(2020年3月)・第4集(2022年3月)につづき第十九番～第二十四番(御師菊田家所蔵)を翻刻・収録する。口絵／序(武藤賢三)／資料 菊田日記 第十九番(文化12年(1815)3月～文化13年正月)、菊田日記 第二十番(文化13年正月～文化13年12月)、菊田日記 第二十一番(文化14年正月～文化14年12月)、菊田日記 第二十二番(文化15年正月～文政元年(1818)12月)、菊田日記 第二十三番(文政2年正月～文政2年11月)、菊田日記 第二十四番(文政2年12月～文政3年11月)

#### ◆松本平の御柱祭

太田真理著 鳥影社(〒160-0023 東京都新宿区西新宿3-5-12 トーカン新宿7

F TEL03-5948-4670 / 〒392-0012 長野県諏訪市四賀229-1 TEL0266-53-2903) 2023年5月 B6 204頁 1800円+税

口絵 松本平の御柱祭斎行神社紹介、松本平の御柱祭斎行神社地図／第一部 松本平の御柱祭 (一章 須々岐水神社の御柱祭、二章 松本地方の御柱祭にみる地域性—山辺谷の木作りを中心に、三章 松本地方の御柱祭—木遣りとその詞章にみる地域性)／第二部 松本平の御柱祭をめぐる周辺の話 (一章 松本ロゲイニングへの木遣り参加—伝統芸能の可能性、二章 松本四柱神社えびす講—まつもと郷土芸能まつりに参加して、三章 小谷村の式年薙鎌打ち神事—諏訪大社御柱祭に先駆けて、四章 上金井のお天狗様、五章 コロナ禍中の御柱祭—何を守り、何を置き換えたか)／あとがき／初出一覧

#### ◆矢彦神社修繕報告書

辰野町教育委員会編・刊 (〒399-0493 長野県上伊那郡辰野町中央1 TEL0266-41-1981) 2023年1月 A4 61頁

序(宮澤和徳)／矢彦神社修繕事業の完了にあたって(赤羽利雄)／Ⅰ 位置と環境／Ⅱ 歴史／Ⅲ 神社史／Ⅳ 神社建築の概要／Ⅴ 修繕の履歴／Ⅵ 修繕の契機と経過／Ⅶ 修繕の概要／Ⅷ 修繕の詳細／Ⅷ 工事関係者／Ⅹ 年度別工事内容／資料1 修繕工事施工図面、資料2 矢彦神社の拝殿及び回廊の再建を巡って(赤羽篤)、資料3 矢彦神社関連史料／写真図版／あとがき

#### ◆「小野のシダレグリ自生地」天然記念物指定100周年記念

##### シダレグリシンポジウム記録集

辰野町教育委員会編・刊(同上) 2023年2月 A4 113頁

シダレグリシンポジウム記録集刊行にあたって(宮澤和徳)／天然記念物100年を迎えて(田中厚志)／報告Ⅰ 保存管理策定までの経緯と経過(福島永)／基調講演Ⅰ 天然記念物の保存と活用(本間暁)／基調講演Ⅱ 国指定天然記念物小野のシダレグリ自生地の現状と課題(大窪久美子)／基調講演Ⅲ シダレグリの異伝様式と異伝の多様性(西尾聡悟)／報告Ⅱ 小野のシダレグリ自生地保存管理計画について(美馬純一)／事例報告 小野のシダレグリ自生地(小野のシダレグリ自生地保全友の会)、竹原のシダレグリ自生地(岐阜県下呂市教育委員会)、西内のシダレグリ自生地(長野県上田市教委委員会)／寄稿Ⅰ シダレグリ保存整備計画と生物多様性ながの県戦略(中村寛志)／寄稿Ⅱ 天狗に好まれた小野のシダレグリ(石井誠治)／パネルディスカッション シダレグリの可能性～保存管理と活用／資料写真

#### ◆収蔵資料調査報告書25 吉田初三郎関係資料 下

宇治市歴史資料館編・刊 (〒611-0023 京都府宇治市折居台1-1 TEL0774-39-9260) 2023年3月 B5 63頁

宇治市歴史資料館が収蔵する資料の目録と解説からなる収蔵資料調査報告書第25

冊。大正から昭和初期、1910年代から30年代にかけて大流行した地域や鉄道沿線を空からの視点で描く鳥瞰図の第一人者 吉田初三郎の251点におよぶ館蔵作品・関係資料の報告書。上巻(2022年3月)に続き、絵葉書その他の資料を収録する。吉田初三郎関係資料目録2 絵はがき等／吉田初三郎と大塚コレクション／資料紹介 吉田初三郎「如何にして初三郎式鳥瞰図は生まれたか?」、真琴清之助「名所図絵の出版に就て」、『吉田初三郎先生作日本全国名所図絵 蒐集目録』、参考『キング』連載「日本全国名所絵巻」／収蔵資料調査報告書

## ◆後記

『コロス』第173号(常民文化研究会、2023.5、本号34頁採録)の、西海賢二「史料もて史料を、伝承もて伝承を 文化史学者としての民俗学者一萩原龍夫先生からの指導によせて」を感慨深く読んだ。萩原は1980年10月に創刊した『史料と伝承』(史料と伝承の会)に、「私たちの方針」として、「(1) 事実を明らかにするために、私たちは、史料と伝承とをふたつながら、たいせつにする方針である。(2) 史料もて史料を、伝承もて伝承を解釈するのは当然である。それとともに、伝承もて史料もて伝承を解釈することに努める、というのが私たちの方針である。」と掲げた。西海氏が若き日に萩原に出合ってから、71歳になる現在まで貫く研究スタイル、「調査地を歩き、観察を重ね、聞き書きをとり、比較し、仮説を構築する」は、福島から京都まで萩原の調査行に同行して学んだことだという。萩原の、それこそ自宅窓を塞ぎ、階段にまで横積みした膨大な蔵書の一部、凡そ8000冊の図書が、亡くなった1985年に、20年近く務めた明治大学に寄贈され、図書館に収蔵された。幸いにも筆者はこの受入れ業務に携わった。内600冊は、今では入手困難な戦前の地方史誌で、同館の特色あるコレクションである地方史関係史料群の中でも異彩を放っている。自宅には調査行の先々で入手したであろう絵葉書と観光地図が段ボール箱数箱づつも残されていた。蔵書で特に印象深かったのは、本の見返しに、文中のキーワードを抜き書きし、頁を付して独自の索引を作っていたことである。それ以来筆者も、これに倣っている。(飯澤)

地方史情報 162 2023年(令和5年)7月1日 発行

編集・制作 : 白鳥舎 hakucho@eris.ais.ne.jp

ウェブサイト公開 : 岩田書院 <http://www.iwata-shoin.co.jp>

〒157-0062 東京都世田谷区南烏山4-25-6-103 TEL03-3326-3757

\*本誌は、140号より、PDF版のみの発行です。